

# 外国語学部 3 学科を 1 学科に改組する趣旨

## 1 学校法人鶴岡学園の沿革

学校法人鶴岡学園は、昭和 17 年故鶴岡新太郎初代理事長（昭和 38 年逝去）・故鶴岡トシ北海道女子栄養学校初代校長（昭和 53 年逝去）夫妻が、第 2 次大戦中の食料難時代に食生活改善及び栄養指導を行う技能者の育成という目的から、札幌市に開設した北海道女子栄養学校を嚆矢とする。以来 60 有余年の学園発展の中で、昭和 38 年に北海道栄養短期大学食物科を開設し、さらに社会の要請に応じ昭和 41 年に家政学科、昭和 43 年に幼児保育学科を増設した。昭和 63 年には、恵庭市からの強い要請を受けて食物栄養学科を札幌市から移転した。平成 6 年には、従来の家政系重点の枠組みを超え、21 世紀に向けて社会の要請に適応できる高等教育機関を構築すべく、短期大学名を北海道栄養短期大学から北海道文教短期大学に変更し、さらに平成 11 年、大学教育を志向する学生が増大する状況を鑑み、国際社会で活躍できる国際性豊かな人材の育成を教育目標として、外国語学部 3 学科を擁する北海道文教大学を開学した。

平成 15 年には短大部食物栄養学科を 4 年制大学へ改組、人間科学部健康栄養学科を開設し 2 学部体制となった。同年には 21 世紀の情報化、グローバル化社会に対応する大学院グローバルコミュニケーション研究科修士課程中国コミュニケーション専攻を開設した。平成 18 年、19 年、20 年と人間科学部に理学療学科、作業療学科、看護学科と新学科を開設し、人間科学部の充実と拡大を図った。人間科学部の充実に対し、平成 18 年には外国語学部英米語学科、中国語学科、日本語学科の 3 学科も時代のニーズに応え、教育内容を外に向け鮮明にアピールする目的でそれぞれ、英米語コミュニケーション学科、中国語コミュニケーション学科、日本語コミュニケーション学科と名称変更した。さらに平成 19 年、大学院はますますグローバル化する社会に対応し、より総合的学際的学修ができるように教育内容の充実を図ることに伴い専攻名を言語文化コミュニケーション専攻に名称変更した。

両学部各学科及び大学院にあっても学園当初からの実学を重んじ社会の要請に応えるという建学の精神に則り、それぞれの分野を通じて教育研究の発展と地域社会の振興に寄与してきた。しかし、全国的にみられる外国語学部の志願者離れの流れは本学にもあり、少子化の時代とあいまって、この学部を取り巻く状況は極めて厳しいものがある。外国語学部離れの原因を自らに問い、教育内容を見直し、より鮮明に特色を示し、有効な外国語教育を実践するため、3 学科を 1 学科に改組することが決められた。

## 2 外国語学部改組の趣旨及び必要性

### (1) 改組の趣旨

言語教育は、本来それぞれの言語環境の中で育まれる技能教育が理想である。しかし、我が国における外国語教育は永年にわたり知識教育が主流であった。そこに外国語教育を

数年にわたって受けてもスムーズな会話ができない要因がある。言語技能の本体部分は言語化不可能であり、その技能の伝達はひたすら実践を通してしか伝えられない。外国語教育の現場にあって言語能力を伸ばすことは知識と技能を兼ね備えたハイブリッド能力を伸ばすことにほかならない。本学外国語学部各学科にあってこの事を強く意識し外国語教育を実践してきた。一方、現代では英語を操れる能力はなんら特殊な能力ではなく、その英語力をもって何を話すかが問われる時代である。つまり何らかの専門があって外国語を操ることが強く求められるのである。その上で、複数言語に堪能であることによるコミュニケーションとしての拮据りは計り知れない。

外国語学部が1学科体制で目指すのは、開設以来十年間の経験の上に、一層効果的なアプローチで、現代社会に求められている国際教養人を育成することにある。周知のように、世界はもちろん、日本国内においても多言語化、多文化化が進んでいる今日、異文化間の問題解決能力、人間関係を築くコミュニケーション能力の養成には豊かな国際感覚が必要であると同時に、その基礎となる多言語によるコミュニケーション能力が必要となる。豊かな国際感覚を構築するには、少なくとも、国際共通語である英語と、世界に影響力を増している中華圏の共通語である中国語の二大言語話者の多様性を知る学習機会を提供することにある。さらに、諸外国の言語と文化を学ぶことを通し、母国語である日本語をグローバルな視点で学び、日本文化を再考し、日本人としての誇りと自信をもって国際舞台で活躍する人材を養成する。

「国際言語学科」1学科への改組は、これまでの3学科体制にみられた、英語選択は英語国の言語文化、中国語選択では中華圏の言語文化といった限られた言語文化の知識摂取にとらわれることなく、学生が主体的にそれらを自由に選択履修できる。さらに、1年次の必修科目のなかに日本語科目を含め、全ての学問の基礎となる母語の理解を深める事の大切さに注意を向けるよう喚起している。また、入学時に将来の目標が定かではないことから、各言語を受身的に学ぶ学生が多く、学習動機が弱く、学習意欲の継続に結び付けることが難しい面がみられた。しかし、1学科体制にすることで、1年次に卒業後の進路をじっくり考えながら、自己の適性を見極める期間を設けることができ、同時に外国語習得の基盤となる日本語をしっかりと固めることもできる。何よりも将来を熟考することで、卒業後の進路に向かって必要な言語を自らの意思で選択するため、その後の学習動機を高め、学習意欲の維持・向上を図ることができる。

さらに、「何を学んだかより」「何ができるようになったか」を学生自らが認識し、自らが自発的に行動することにより発生する「楽しさ」がその根底になければならない。学修における「楽しさ」とは達成感であり、現時点より難易度が少しでも高い課題を突破したいという欲求でもある。本学教員は学生が体感する「楽しさ」を常に意識した授業を心掛けなければならない。さらに行動が伴う実践活動も「楽しさ」を具現化した教育活動である。海外留学・国内外インターンシップ・地域における多言語ボランティア・外国語ミュージカル等を実践してきたが、これらを教育システムの中に位置付けることで、本学部学科の特色のひとつに育てていきたい。

## (2) 主たる研究分野

外国語学部国際言語学科に履修上の区分として英語・中国語・日本語各コースを有することから、中心研究対象となる言語は、英語、中国語、日本語の3言語となる。これら3言語において、言語そのものに関する研究に加え、言語を取り巻く文化や社会、その言語起源および変遷などが、国際言語学科の中心研究分野である。同時に各言語の教育法及び教授法、そしてその教材分析・開発等も研究分野とする。このように学科の下に従来の学科の単位であった英語・中国語・日本語をベースに履修上の区分としての各コースを置き、主な研究分野を継続する事は、在学生の所属する各学科の将来に対する不安を取り除くばかりか、賛同と理解が得やすいものである。また、新入生にあっては自らの適性を教員とともに確認し、戦略的に学修する目標設定となっていくものである。

## (3) 社会的ニーズ

本学部学科の就職実績は2002年に第一期生を輩出し、2008年の第七期生に至るまで比較的高い就職率を維持している。2002年から2004年に至る就職率は68.8%~75.4%で、未就職者にはワーキングホリデーの参加者や公務員・教員の再受験希望者が含まれ、外国語学部特有の状況があった。しかし、2005年から2008年の就職率は79.3%~85.1%と順調な伸びを示す。特に中国語を専攻する学科にあっては就職の逆指名が数年に渡り行われた実績もある。これは本学の言語教育の実績並びに就職課によるキャリア支援や個別相談などが功を奏しているものと思われる。現在の厳しい社会経済状況にあっては、本学の就職活動も苦戦を覚悟しなければならないが、今後の課題としてはこの状況の維持と、言語専門分野等への進出拡大が目標となる。したがって、本学では本学部学科のニーズには期待感を持っており、ややもすると即戦力としての人材を求めているニーズに翻弄されることなく、学生の将来を鑑み、広く汎用性のある基礎的能力を持つ人材の育成に努める意味でも新学科の編成に着手したものである。

【資料1】 就職データ

## 3 学部、新学科の特色

外国語学部の特色は設置時の学部教育理念として掲げたものとなら変更はない、確認のために、ここに再度明記する。

- ① 幅広い教養を培い、外国語の実践的な運用の能力を涵養して、世界の人々とのコミュニケーションが可能になるようにする。
- ② 日本文化に対する深い省察と、英語、中国語文化圏を中心に異文化に対する高度な知識を修め、国際社会で活躍できる能力を修得させる。
- ③ 教育・文化・ビジネスなどの実社会において活躍するために必要な知識と情報処理能力を修得させる。

新学科の特色は以上の学部教育理念を前提におきながら、3学科を1学科に統合した

必要性が色濃く反映されたものでなければならない。なぜなら開設以来実践してきた言語教育の反省点に立ち、モラトリアム人間に分類されがちな現代の学生気質に明確な目標を設定させる必要が社会から求められていると認識し学科再編に踏み切った要因もある。さらに、従来の教授側からの一方的な「何を教えるか」の発想から如何に離脱し、学生の視点により「何を学んだか」は基より「何ができるようになったか」に明確にシフトしたカリキュラム編成と教育システムを提示することに他ならないと考えるからである。

1年次では自己の適性を見極める期間として本学が準備する「英語」「中国語」「日本語」の中から2つのゾーンを選択し、言語教育の基礎を学習し、外国語を必要とする理由を学生自らも明らかにし、外国語習得の基盤となる日本語をしっかりと固める。すでに目標が定まっている学生は、その学習目標言語をさらに極め、1学科体制のメリットである複数言語の習得も十分に可能である。2年次では学生自身の希望と言語適性について十分に担当教員と話し合った上で、主軸とする言語を定め「英語コース」「中国語コース」「日本語コース」のコース選択を行い、明確に言語習熟度の目標設定を行う。このように1・2年次では教養科目と本学が設定した専門科目「ことば科目群」を緩やかに、且つ徹底して学ぶことにより、知識と技能を兼ね備えたハイブリッド能力を伸ばす。

3・4年次では学生が自ら選択した主専攻コースを主軸としながらも、何を伝えるかを明らかにする専門科目「行動科目群」の6トラックから科目選択する。各トラックの科目では何を伝えるかをきっかけとした教科目の学習を通して様々な専門を認知し、学生自らが将来の方向性を定める発見と確認の場でもある。また、当然のことではあるが、何を伝えるかを明確にした上で、「ことば科目群」にて学習したそれぞれの言語教育の基礎を再確認し、その応用とレベル向上を図る科目も多数用意されている。

新学科の特色としては何を伝えるかを明らかにし、どのように伝えるかを繰り返し学び、学生自身が「ことば」を駆使することで「何ができるようになった」か、学習をとおし実感することが可能となっている。さらに、専門科目「行動科目群」に配置された幅広い専門科目や参加行動型の科目により、幅広い見識や価値観等を学ぶことで、「ことば」分野での即応力に加え、汎用性のある基礎的な能力をも身につけ、卒業時の職業選択にも役立つキャリア支援的役割を持つカリキュラム編成にあるといえる。将来の進路に向け「必要だが学べない」ではなく、「必要だから学ぶ、学べる」学修環境を提供するのが1学科への再編の大きな特徴であり、各言語・言語文化等を専門とする教員からの幅広い見識に触れることで多様な国際教養知識を育む。

これらのカリキュラム編成を3×6システムと名づけ新学科の特色として展開する。

## 4 新学科の名称及び学位の名称

### (1) 学科の名称

外国語学部 **国際言語学科** (英語コース・中国語コース・日本語コース)

[学部学科名英語表記] FACULTY OF FOREIGN LANGUAGES

新学科の名称は、現代社会に求められている「国際的教養人」の養成と「言語(ことば)」を学ぶ学科として志願者に分かり易く、新学科の特色を端的に表現した名称であることが求められる。「ことば」によるコミュニケーションが、人と人との関係を築き上げる重要な道具であることを踏まえ、豊かな国際感覚を構築するには少なくとも、国際共通語である英語と、21世紀世界に影響力を増している中華圏の共通語である中国語の二大言語話者の多様性を知り、母語である日本語をグローバルな視点で学び、日本文化を再考する学修機会の提供は必須である。同時に人間が社会の中で「行動」してこそ輝く存在であることを重視し、「ことば」を活かしその能力を発揮する場を、人と人との関係の中で捉え追求していく。このような捉え方を確立することにより、「ことば」を通して、学生の資質を高め、現代社会の様々な分野において求められている国際教養人を養成し、異文化間の問題解決能力、多言語によるコミュニケーション能力の育成、さらに将来の進路を見通した明確な目標設定を掲げ、個々の能力を発揮し、輝くことができる人材を育成することにある。よって、学科名称を「国際言語学科」としたものである。

## (2) 学位の名称

学士(外国語) [英語表記 Bachelor of Arts in Modern Languages ]

学士の名称については従来の外国語学士と変更はない。

## 5 教育課程編成の考え方及び特色

### (1) 教育課程編成の方針

学部の教育理念を実現することを目指し、教員、公務員、行政職、医療事務、観光、文化事業、商社、貿易、金融、流通など実社会で幅広く直面するであろう多国籍性格を持った問題を解決するための視点が確立されるように、次の方針で教育課程を編成する。

- A. 教養科目と専門科目との一貫性を図り、1年次から4年次まで調和のとれた履修計画を作成し、幅広い教養を培い、多様な学生の個性を伸張するように配慮する。
- B. 実践的語学教育の充実を期して、外国人教員による授業はもとより、必要な時間を確保し、学生自ら目標を設定し学修できるように配慮する。
- C. 少人数制によるきめ細やかな指導を行い、教育内容が適切に定着できるように配慮する。
- D. 今日的課題に迅速に対応し、また、学生が意欲的に参加できる科目をもって教育課程構成するように配慮する。
- E. 学生が多様な教育機会を活用できるように配慮する。
- F. 外国人留学生を受け入れ、国際交流の推進を図る。
- G. 大学生活全体を通して快適な学生生活が送られるように配慮する。

教育課程の編成の方針に基づき、教育課程は教養科目(基礎科目群、教養科目群からなる)、専門科目(ことば科目群、行動科目群からなる)をもって構成する。「基礎ゼミ」「情

報処理」等は教養科目の基礎科目群に、「ロシア語」「朝鮮語」等の外国語並びに留学生対象の「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」等は教養科目の教養科目群に含まれる。専門科目のこことば科目群は英語、中国語、日本語、の各科目群から構成され、1・2年次に集中的言語教育を行う。さらに3・4年次では専門科目の行動科目群が中心となり、行動科目群はつぎの6トラックからなる。各トラックは1・2年次で培った能力を行動で確かめるステージであり、トラックの組み合わせで能力を覚醒させる科目群によって構成される。言語プロフェッショナル、文化探求、教職、医療事務、国際観光ビジネス、地域貢献、の科目群である。また、こことば科目群には各種資格・検定に対応し、こことば科目群の共通科目に「資格・検定Ⅰ～Ⅳ」を配置。行動科目群の共通科目には留学・多言語ボランティア等に対応し、「総合言語実践Ⅰ～Ⅳ」「国際言語研修Ⅰ～Ⅳ」を配置する。

## (2) 教育課程編成の特色

- ① 4年間一貫の原則に基づき、教養科目（基礎科目群・教養科目群）と専門科目、取り分け専門科目の「こことば科目群」「行動科目群」を有機的に組み合わせて、教育課程の深化・定着を図っている。
- ② 短期集中的な教育により学習の成果を高め、また、教育の国際化に対応しうるようにセメスター制を導入している。
- ③ 言語教育をはじめ各科目とも少人数教育による、きめ細やかな指導を行うように配慮している。
- ④ 学生の主体的な学習能力を育成し、豊かな大学生活が送れるように1年次に「基礎ゼミ」（必修）を開講している。
- ⑤ 学生の多様な進路に対応するように、専門科目「行動科目群」にトラック（区分）をおき職業選択の一助とし、教職課程も組み込んでいる。
- ⑥ 複数による担任制を充実し、言語習得の適性、履修の方法、留学・インターンシップにかかわるフォロー及び学生指導を行う。

【資料2】「教育理念と教育課程の構成」参照

## 6 教員組織の編成の考え方及び特色

外国語学部国際言語学科にある教員は、教員個々が高度な言語能力を求められるだけでなく、その言語の背景となる文化や社会、歴史に関する深い理解と知識が必要であり、研究対象となる各言語が話される国や地域、社会に関する真摯な研究を行うことが求められる。同時に、教育者としての観点から、外国語の教育方法や教育方法改善及び教育教材開発などの分野での研究が求められる。本学科は、履修上の区分から英語コース、中国語コース、日本語コースを有するため、中心研究対象となる言語は、英語、中国語、日本語の3言語となる。これら3言語において、言語そのものに関する研究に加え、言語を取り巻く文化や社会、その言語起源および変遷などが、国際言語学科の中心研究分野となる。同時に、各言語の教育法及び教授法、そして各言語の教材分析・開発なども中心研究分野となる。

また、これらの研究が、社会の要請に対応できる人材育成に反映されるだけでなく、社会に還元できる、開かれた学問になることを目指す。

教員組織については、本学科の中心研究分野に深く携わり、英語・中国語・日本語を教授するにふさわしい豊かな教育実績と優れた研究実績を有する教員を軸として教授 12 名、准教授 6 名、講師 1 名の計 19 名により構成される。

専門分野別では英語分野は教授 4 名、准教授 2 名、講師 1 名の計 7 名。中国語分野は教授 2 名、准教授 1 名の計 3 名。日本語分野は教授 3 名、准教授 2 名の計 5 名。その他の分野に教授 3 名、准教授 1 名の計 19 名である。また、学位の保有状況は博士 7 名、修士 8 名、学士 4 名である。

【資料 3】「専任教員の年齢構成・学位保有状況」「定年規程」参照

## 7 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

卒業に必要な単位数は 124 単位としその内訳は以下の通りである。なお、各年次における履修登録単位は 50 単位を限度とする。

学部理念及び学科理念を強く反映し、本学科の学修の根幹をなす科目を必修とし、教養科目基礎科目群に「基礎ゼミ I」をはじめ 4 科目 8 単位とした。また学修する主言語及び副言語を専門科目ことば科目群に選択必修（コース別必修）として配置した。「卒業研究」も必修とし学科での学修の成果を総合的にまとめるものとしている。なお、留学生にあっては教養科目基礎科目群に留学生必修の「日本語 I（1）～（10）」「日本語 II（1）～（10）」を 2 科目 20 単位配置している。さらに社会の様々な領域や分野において、「ことば」によるコミュニケーション能力を活かし、自らが考えて社会に一步踏み出す行動力を身につけた人材を養成することを目的としている本学科は、社会から求められるであろう汎用性のある基礎的な能力を培う為に、おおくの選択科目を教養科目・専門科目に配置した。

### （1）卒業要件

	科目群	区分（トラック）	卒業要件単位数	
			履修条件	必要単位数
教養科目	基礎科目群	基礎科目	必修 8 単位	8 単位以上
	教養科目群	人間と文化	選択 10 単位以上	10 単位以上
		社会と制度		
		外国語		
		スポーツと健康		
留学生※3	留学生選択必修 20 単位※3	6 単位以上※3		
専門科目	ことば科目群	英語	主言語専門 28 単位及び副言語専門 4 単位の計 32 単位を選択必修	計 40 単位以上
		中国語		
		日本語		

		(共通)	※1	
行動科目群	トラック	言語プロフェッショナル	2トラック以上の科目から選択8単位以上	計16単位以上
		文化探求		
		医療事務		
		国際観光ビジネス		
		地域貢献		
		(共通)		
		教職※2	別表に示す	
卒業研究			必修4単位	計4単位
合計			124単位	

注：※1 英語・中国語・日本語から主言語を定め、選択必修科目18科目28単位を履修。さらに、副言語の1年次選択必修8科目中、4科目4単位を履修。計選択必修32単位履修。

※2 教職単位は卒業要件単位に含まない。

※3 留学生履修条件と卒業要件について。

留学生が大学生活を効果的に送る上で、徹底した日本語能力養成を図ることを目的として、留学生必修科目「日本語Ⅰ(1)～(10)」、「日本語Ⅱ(1)～(10)」全20単位を設定した。

・「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」の単位は卒業要件に含まない。

入学時に日本語能力が大学生活を送る上で問題がないと判断された留学生は、「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」の履修を免除し、一般学生と同じ履修を行う。

・日本語能力が十分でない留学生の1年次前期は、日本語能力の向上に専念し、大学生活の軸となる日本語運用基盤を築く。

・日本語能力に応じて、1年後期または2年次から「専門科目」を履修し、卒業要件を満たしていく。

・入学時の日本語能力測定により、日本語能力が大学生活を送る上で十分であると判断された場合は、1年前期から一般学生と同様の卒業要件とする。

## (2) 履修モデルについて

本学科が示す3×6『3コース(ことば科目群)6トラック行動科目群』の教育システムで特筆すべき点は、3つの言語分野(英語・中国語・日本語)をベースとし、在学中に将来の職業目標をイメージし、科目履修をとおして具体的にしていくことにある。履修モデルとして次の6種15分類を示す。

1-1 英語通訳者・翻訳家

1-2 中国語通訳者・翻訳家

1-3 日本語教師

2-1 中国語関連分野大学院進学者

2-2 日本の大学院へ進学する留学生

- 3-1 英語教諭
- 3-2 国語教諭
- 4 医療事務従事者
- 5-1 英語ツアーコンダクター
- 5-2 中国語ツアーコンダクター
- 5-3 英語圏商社員
- 5-4 中国語圏商社員
- 5-5 ホテルマン（英語話者）
- 5-6 ホテルマン（中国語話者）
- 6 地方自治体行政員

【資料4】「履修モデルカリキュラム」参照

### (3) 履修の方法

#### ア. 教養科目

##### ① 基礎科目群 必修4科目8単位、選択5科目10単位

幅広い教養へのアプローチと総合的な判断力を旨とする教養科目にある基礎科目群は、主に必修科目を軸に構成した。異文化や「ことば」の本質を理解し、豊かな国際性を持った人材の育成を目的とする本学科では重要な役割を果たす。大学での学習の仕方や外国語を習得する前段階として日本語を正しく用いることを留意させる「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」(必修)を重点科目として、母語の運用能力を再教育し、基本的な問題解決能力を高めることを目的とした。また、「異文化間コミュニケーション論」(必修)では、多様なコミュニケーションを受容するための一歩を学び、「ことばのしくみ」(必修)において、学生は、ことばがどのような仕組みから成り立つのかを学び、言語の不思議さと面白さに気付いてもらうことを重要課題とした。

##### ② 教養科目群 19科目30単位 留学生必修20科目20単位、選択1科目2単位

教養科目群は、「教養科目基礎科目群」とリンクさせ、学生の一般的な教養を高め、外国語学部の学生として、多角的で総括的な教養の育成を目指し設置している。これらの基礎的教養の上に、「教養科目群」では、「人間と文化」(3科目6単位)、「社会と制度」(5科目10単位)、「自然と科学」(2科目4単位)、「外国語」(6科目6単位)、「スポーツと健康」(2科目2単位)、の5トラックを設け、多角的、外観的、総括的な教養の育成を目指す。加えて留学生の日本語習得を加速する目的で[留学生](必修2科目20単位 選択1科目2単位)の各分野の科目より構成する。

「教養科目群」での科目設定は、学生が机上で学ぶ教養は限界があり、また教育効果が上がらなかったという、これまでの反省を踏まえ、より学生自身により身近な生活の中から、考えることができる科目を厳選して設定した。同時に専門科目である「ことば科目群」においては、1年次から母語の力を高め、専門言語を学ぶ体制がとられている。このため、「ことば」以外の教育目標として、人間は、社会の中で行動して

こそ輝く存在であることを重視し、その能力を発揮する場を、人と社会、人と人との関係の中で捉えるために役立つ科目設定とした。「人間と文化」トラックでは、人間の芸術、教育、または人間そのものについて深く考え捉える科目を設定し、「社会と制度」のトラックでは、現代社会と人の営みに関するものを外観的に捉える科目設定とした。また「外国語」のトラックでは、北海道という地理的位置づけ及び本学との国際交流を重視「ロシア語」「朝鮮語」科目を設定した。

## イ. 専門科目

### ① ことば科目群

#### 英語 選択必修 18 科目 28 単位、選択 9 科目 16 単位

英語コースの基本は、英語ネイティブスピーカー教員に週 3 日、日本人教員から週 2 日、つまり、毎日英語に接し、半数以上のクラスでネイティブスピーカーとコミュニケーションを行なう機会を与えるということが基本となる。1 年次には、英語能力の伸びを基盤で支える母語力を鍛えるために《目玉科目》として設定した「基礎ゼミ」を受講できるよう、時間割上の担保措置として、必修は週 4 日とし、コンピューターを用いて、教員との 1 時間当たりの接触が最も少なくなる「CAI イングリッシュ演習」だけを選択必修から外した。(なお、「CAI イングリッシュ」は、すでに 2008 年度カリキュラムから、ネイティブスピーカーによる発音指導に重点を置いた科目として開講されている。)

毎日英語だけで授業を受けることは一見理想のように思えるが、どれだけ英語を聞いても、それが理解可能で、意味のわかる英語でなければ、学習そのものが成立しないことになり、何の教育的効果もない。少人数化を図っても、学生の英語能力差に完全に対応することができない以上、基礎英語力の充実をはかる 1、2 年次においては、日本人教師が、母語を有効に使って、特に英語力の十分でない学習者の英語習得を助けることが重要な教育的配慮であると考えている。

この 10 年間の経験で、英文法を単独に教えても十分な効果が上がらないことが明らかになった。したがって、文法は、ネイティブスピーカーと日本人の教員が、全てのクラスで教えていくことが必要になる。ネイティブスピーカーは、とにかく英語でのコミュニケーションを重視する。したがって、英語によるコミュニケーションを保ちながら、非明示的な方法による文法指導を行なう。一方、日本人の授業では、英作文に重点を置いて教える科目「総合英語演習Ⅰ／ⅡB(1)」「コミュニケーション・イングリッシュⅠ／ⅡB(1)」とリーディングに重点を置いて教える科目「総合英語演習Ⅰ／ⅡB(2)」「コミュニケーション・イングリッシュⅠ／ⅡB(2)」があり、これらの科目の中で、英語を正しく書く、英語を正しく理解するための道具としての文法を学ばせるようにしている。何かを具体的に書く、何かを具体的に読むという実践的なプロセス（文脈がはっきりした（context-rich な）状況）の中でこそ、本当に身につく文法指導ができるという考え方に基づいている。教員とのやり取りを一回でも多く、一分でも長く実現させたいこれらの授業では、添削などを含むきめ細

かな指導を要するため、クラス分けを行なって、習熟度別の指導ができるようにする。

入学者には全員に英語能力テストを受けさせる。このテスト英語力が乏しい学生には、教養基礎科目の「ブリッジ・イングリッシュ」をリメディアル教育科目として必ず受講させる。ベテランの教員が、聞く・話す・読む・書くの4技能を、聞く・読むに重点を置いて、指導する。この前期科目の受講者は、後期に開講される「コミュニケーション・イングリッシュ入門」を受講するように指導する。

### 中国語 選択必修 18 科目 28 単位、選択 12 科目 24 単位

ほとんどの学生が中国語を大学で始めて学習するため、中国語コースでは、1年次から3年次まで、中国語の「ことば」に関する科目を、レベルや必要性に応じて設けており、それらを「ことば科目群」の中に配置している。その根本にあるものは、「中国語を中国語で理解する」ということである。つまり、日本語を介して理解するのではなく、できるだけ中国語のみの環境で学習を進めることを念頭におく。しかし、幼児でない学生にすべて中国語のみで学習を行うことは困難が伴い、学習内容においても誤解を生みやすいため、1年次から3年次まで、中国人教員と日本人教員が役割に応じて、分担して指導や講義を行う体制がとられている。

まず、1年次の必修科目は、中国人教員と日本人教員が科目ごとにペアを組み指導にあたる体制をとる。日本人教員によって説明した内容を、中国人教員が徹底した反復練習により、确实且つ正確に定着させる方式である。前期「中国語の基礎演習Ⅰ(1)・(2)」「中国の発展演習Ⅰ(1)・(2)」、後期「中国語の基礎演習Ⅱ(1)・(2)」「中国の発展演習Ⅱ(1)・(2)」は、それぞれ、日本人教員と中国人教員がペアを組み連携をとって教育にあたる方式となる。「基礎演習」を日本人教員が「発展演習」を中国人教員が担当し、例えば発音では、日本人教員により、音の特徴、しくみ、規則などを説明し、学生が理解した段階で、中国人教員による反復練習がもたらされるという具合である。1年次から、中国人教員は、ほぼ中国語だけを用いて授業を行い、日本人教員も授業中の中国語を用いる比率を少しずつ、少しずつ上げていく工夫を施す。この他、言語の背景にある中国社会・文化への理解や中国語の基礎となる漢字への理解を深めるため、1年次には、「中国へのアプローチ」「漢字のしくみ」を配置する。「発音チェック中国語」は、「発音よければ半ばよし」と言われる中国語の特質から、中国語の正確な発音修得は日本人には難しいため、初期の段階での正しい発音修得を目指したものとなる。また、学生が客観的な判断によって、自分がどのレベルに達しているかを知ることが大切なことであり、更なる学習へのモチベーションにもつながるため、各種中国語語学検定にチャレンジする土台として「中国語検定」4級レベル修得を目指す内容を講義する「初級検定中国語」を設ける。

2年次には、前・後期それぞれ、5科目のコース必修科目と2科目の選択科目を設ける。必修科目中の前期「速修中級中国語Ⅰ(1)」「速修中級中国語Ⅰ(2)」

後期「速修中級中国語Ⅱ（１）」「速修中級中国語Ⅱ（２）」は、それぞれ日本人教員と中国人教員がペアを組み連携して講義にあたる。１年次と同じようにペアによる講義形態となり、日本人教員による講義内容の基礎の上に、中国人教員がさらに一歩進めた、発展的内容を講義するという形態になる。その他に設けた「話す中国語Ⅰ・Ⅱ」「聴く中国語Ⅰ・Ⅱ」「書く中国語Ⅰ・Ⅱ」「読む中国語Ⅰ・Ⅱ」は、それぞれ語学修得上の不可欠な要素である「話す」「聴く」「書く」「読む」の４方面の力を特化して高めることを目的とした講義内容となる。特に「話す中国語Ⅰ・Ⅱ」「聴く中国語Ⅰ・Ⅱ」を必修とするのは、人間の言語コミュニケーションの基本が聞いて、話すことにあるためであり、コミュニケーションの手段としての言語に重きをおく本コースの基本的姿勢によるものである。「中級検定中国語Ⅰ」は「中国語検定」３級レベル、「中級中国語Ⅱ」は「中国語検定」２級レベル修得を目指す講義内容設定がなされ、１年次設定の「初級検定中国語」設定の目的と同様の観点から設置しているだけでなく、さらに、将来の就職に向けた準備段階の意味を併せ持つ科目設定となる。

３年次前後期設定の「速修上級中国語Ⅰ・Ⅱ（１）（２）」は、それまでの２年間に学習した、演習や講義科目からのアプローチを総括し、それまでに培った部分的な学習を系統的な道筋を持った学習に変えていくためのものである。これと同時に、簡単な中国語ではなく、内容のある中国語会話ができるようになるための講義設定となる。

#### 日本語 選択必修 18 科目 28 単位、選択 8 科目 16 単位

日本語コースでは、義務教育や高校で学習してきた国語を基礎とし、留学生とともに日本語を外国語の視点から学んでいく。「ことば科目群」における日本語コースでは、日本人の話す日本語の世界にとどまることなく、代表的な外国語・外国文化と比較対照したり、外国人の話すいろいろな日本語を分析したりしながら、日本語の言語学的特徴や日本語文化を考察していく。そして、その知識を駆使して伝え合おうとする日本語運用意識が育つよう、１年次から具体的な達成目標を各授業に設定している。

１年次は、これまで学生が身につけた日本語を見直し、正しいことば遣いで明確に伝え合えるコミュニケーション技術を学ぶ。

１年次の必修科目には、日本語を論理的な文章で書けるようにするための「日本語文章表現法演習Ⅰ」「日本語文章表現法演習Ⅱ」と、わかりやすく明瞭な音声で表現できるようにするための「日本語音声表現法演習Ⅰ」「日本語音声表現法演習Ⅱ」を前期・後期に置き、「書く」「話す」の基礎から応用までを少人数クラスで訓練していく。

同時に、日本語とはどのような言語であるかを確認するために、必修科目の「日本語学演習Ⅰ」「日本語学演習Ⅱ」「現代日本語演習」で、日本語の文字・語彙、表記、文法の基礎をしっかりと身につけてもらう。また、「日本語教育基礎演習」で日本

語をソトから眺めるとはどういう視点かを学んでいく。そして選択科目の「日本語と日本文化」と「日本の漢字と言語生活」で、これまで意識せずに使ってきた日本語と文化の関係を再考し、ことばの背景とその使われ方に興味関心が持てるようにしている。

発信力を養成し、積極的に人と関わろうとする意識を促進するために「言語による自己表現」を必修科目とし、選択科目に「非言語による自己表現」を置いて、ことばだけでなく非言語メッセージも含めたコミュニケーションの基礎が学べるようにした。これらの基礎能力は、2年次に学ぶプレゼンテーション技術やコミュニケーション技術を習得する科目にリンクしている。

1年次は、演習授業を通して、人間関係をつくるための言語情報伝達や自発的に行動するためのコミュニケーション力とは何かを、自己発見型で学んでいく。日本語のおもしろさ、奥深さを楽しみ、いろいろな日本語表現を通して、他者も自分も好きになってもらいたい。

2年次は、1年次に身につけた日本語や日本語コミュニケーションの基礎知識や気づきをベースに、日本語を効果的に運用していくため、実践に近づけていく応用技術を学び、学生がスキルアップしようとする学習動機の維持・向上が図れる科目を配置した。ことばで人と関わり合うことで自分を客観的に分析し、ことばで自分を成長させていくことの醍醐味を発表形式やグループワークなどで体験的に学んでもらいたい。

必修科目には、外国語としての日本語がより明確に見えてくる科目を置いている。日本語と世界の言語を比較対照しながら、日本語の特徴を学ぶ「世界の言語と日本語」のほか、日本語教師を目指さない学生にも「日本語教授法Ⅰ」を必修とし、日本語教育の手法から「言語としての日本語」が理解できるようにしている。日本語教師を志望する学生には、これに続いて「日本語教授法Ⅱ」を選択科目として置き、いろいろな外国語教授法の理論と実践が学べるようにしてある。

1年次に続き、生きた日本語に焦点を当てた「現代日本語論」「現代日本語のフィールドワーク」をはじめ、話すことと聞くことのスキルを磨く「日本語コミュニケーション技法」や、説得力、交渉力の養成を目指した「ベーシックプレゼンテーション」とその発展科目である「アクティブプレゼンテーション」を前期・後期に置き、言語としての日本語とその効果的な運用法を実践的に学んでいく。

また、日本語がどのように社会で使われているのか、人はどのようにことばを認識し、ことばの解釈をしているのかなどを学ぶため、日本人の言語生活を中心にことばの力を考える「ことばと社会」や、身近な言語現象を認知言語学で読み解いていく「ことばと心」を必修科目にしている。これらの科目から、社会は人にどんな役割を求めているのか、ことばはどんなふうに人間に影響を与えているのか、そして、「何のために」ことばを使うのかに向き合ってもらいたい。

そして、人に共感でき、相手を思いやる豊かな心の育成と、人の生き方を学ぶことを目的として、日本の代表的な文学作品を味わう「日本の文学作品を読む」を必

修科目に置き、選択科目には「古典文法が拓く世界」「日本近代文学史」を設け、話題の小説から源氏物語まで、日本の名作に触れながら、日本語の多様な表現を吸収すると同時に、日本語の感性を磨く機会を提供した。特に国語教諭を目指す学生には、これらの授業から文学作品を評価する目が養われるであろう。

日本語コースでは、3年次以降も、より深く専門的に日本語を学びたい学生のためだけでなく、将来のビジネス等に活かせる日本語基礎力が定着するよう、講義形式の授業でも、すべて「理論＋行動」の教育方法を採用、知識を実践に移す能動的な学習姿勢の確立を目指している。頭で覚える学習と身体で覚える行動的な学習を組み合わせることで、日本語の確固たる言語学的基礎知識と運用力が身につくよう、受け身の態度ではられない学生参加型授業にしている。

#### ことば共通 選択4科目8単位

外国語を習得するにあたり、個人差は確実に存在する。学生自身が己のレベルを認識し、目標を持ってこれを達成するには、言語教育を行うにあたり当然のことである。学生が目指す言語資格・検定をサポートする科目として「資格・検定」を配置する。

### ② 行動科目群

#### 言語プロフェッショナルトラック 24科目48単位

ことばを使った職業は色々あるが、どんな職業でも、基礎がしっかりしていないと、高度なレベルへ到達することが困難である。外国語の場合、特に、その基礎として母語の理解が重要になる。「音声学への招待」では、どんなことばを学習するときも、話し言葉が基本にあり、母語でも外国語でも、話せることを書くことができるようになるのであって、その逆はない。話し言葉の基本には、言語音の正確な発声がある。自分の母語の音声と学習している外国語の音声がどんなふうに違っていて、その外国語を話すことがそんなに難しいのはどうしてなのかを音声学的に理解しておくことは、すべての外国語学習の大いなる助けとなる。何かを伝えたいと思う相手にわかりやすい発音で話すというのは、何語にあっても、コミュニケーションの基本であり、語学のプロフェッショナルは、まず、音声を制覇しなければならない。「日本語の構造」では、自国のことばがどのような仕組みで組み立てられているのかをよく知り、他の言語の仕組みを理解するものさしとなる。共通している仕組みは、知れば知るほど、その共通部分を使ってどんどん外国語を学んでいくことができるからである。他の言語との共通部分を最大限に活用し、困難な相違点については、異なる部分の切り替えが上手くできるよう最大限の注意と意識を払いながら、早く、正確に外国語を修得していくための方法を理解し、外国語能力の修得や向上に役立てていくことができる。「日英対照言語学」「日中対照言語学」では、「日本語の構造」で学んだことをさらに深く掘り下げて、学生の外国語学習を理論の上から支援する。早期外国語教育を担う人材を育てるために「早期外国語教育論」では、2011年度から小学校での外国語教育指導

が必修化されるにあたり、中学や高校での英語教育とどんなふうに異なる外国語教育を小学校では行っていくべきなのか、その問いに理論と実践の両面から答える。これからの外国語教師にとって必要不可欠な科目と位置づける。通訳や翻訳といった職業は、本当の実力のある言語専門家が進むべき王道ともいうべきものである。翻訳には、きわめて高度な日本語能力と外国語能力が必要とされる。通訳業務は、ビジネス、観光、行政など、これからも、多くの場面で、多くの人々によって、日常的に行なわれていくものである。「通訳英語」、「通訳中国語」では、その王道の基礎を築くための重要な科目として、必要な能力の基礎を築く目的で配置する。

### **文化探求トラック 選択 17 科目 34 単位**

日本人が今後ますます国際社会での信頼を獲得していくためには、日本と日本人についてよく知り、説明できる能力が重要である。また、他の文化や社会についての知識を深めることも、その社会で使われていることばを適切に使う上で重要である。アメリカなどでは、会話で宗教の話はタブーだと言うが、それはアメリカ人同士の話であって、外国人は「あなたの宗教は何ですか」とよく聞いてくる。こういうとき、自分は勿論、日本社会の一般的な状況についてきちんと説明ができないと、尊敬されなくなってしまう。そんな異文化間の教養を身につけるのが「日本の信仰と生活」である。「日中文化比較」や「日米文化比較」でも、日中、日米の文化を比較しながら、自国の文化と社会の特徴を外国人にわかりやすく説明できる力をつけさせる。さらに、「環太平洋地域文化論」では、欧米一辺倒の知識ではなく、日本の近隣諸国をよく知るという極めて重要なニーズに応える科目であり、特に、環太平洋地域で活動している又は、活動を計画する企業や機関で活躍できる人材を育てる。

### **医療事務トラック 選択 11 科目 22 単位**

インターネットによる情報交換の加速度化により、現代の医学は長足の進歩を遂げ、新しい医学情報が信じがたいスピードで共有されるようになった。インターネット上の英語情報にアクセスし、医師だけに限られていた医療処置の決定プロセスに、患者や家族が積極的に関与できる事態が生じつつある。一方、カルテなどがほとんど英語で書かれるようになり、医療ミスなどを予防するための方策の一つとして、あるいは全国レベルでの適性医療の確保のために、病院・医院の様々な情報を外部に提供、公開する必要が増している。このような社会変化の中で、英語による医療情報の収集やその管理といった能力が重要性を増している。そうした業務に対応できる人材を育てるためにこのトラックが用意されている。「メディカル・イングリッシュ」では、英語による医療情報の管理はもちろん、英語話者の患者に対して、治療手順に関わる事柄から保険制度や治療費などといった事柄に対応できる人材を育てるための英語教育の実現を目指す。

### **国際観光ビジネストラック 選択 21 科目 42 単位**

ビジネスのグローバル化の波はとめどもなく大きくなっている。そして、そのグローバル化を助長し続けるインターネットの発達と拡大とともに、個人が、企業の一員として、あるいは、起業家として、ことばを武器にして海外のマーケットに営業拡大していくことが可能になってきた。そのために欠くことのできない言語技能は、従来のビジネスで求められてきた対面交渉術に優る以上のレベルで求められている。このような技能を備えた人材を育てるために用意したのが、「ビジネス・イングリッシュ」「ビジネス中国語」である。一般的なビジネス場面で役に立つ言語技能を習得しながら、「経営学入門」、「マーケティング論」、「ベンチャービジネスと企業論」などでビジネスセンスを磨くこともできる。さらに「英語の広告・マーケティング」では、英語で販路を切り開くための広告宣伝・マーケティングのノウハウをビジネス経験のあるネイティブスピーカーから英語で学ぶ。本学の基礎教育で学ぶ日本語技能をビジネスの実用場面でしっかりと正しく使いこなせるよう担保する科目として「オフィスライティング」を設けている。基礎技能は2年で終わりというわけではなく、応用科目でもさらに強化するという本学科のポリシーをよく示している科目である。また、大学が地域とつながり、協力して、北海道の地域ビジネスに即戦力となる人材を育てるための目玉科目として「観光産業インターンシップ」という科目を配置する。洞爺湖サミットでの通訳ボランティアでの経験とつながりを生かして、北海道の主要産業である観光の分野で地域のビジネスに貢献できる人材を生かすためのインターンシップである。

#### 地域貢献トラック 12科目 24単位

インターネットを介した市民レベルのグローバル化にともなって、《地域》も常に世界のすべての地域とつながった《世界地域》へと変貌している。グローカル(global + local)ということばが、いまや、全ての地域にあてはまる時代が到来した。そのような中で、地域の行政に携わる人々も、地域をインターネットで世界につなぎ活性化していく時代となった。この時代の要請に応じて地域に貢献できる人材を育てるためには、「時事英語」「時事中国語」などの本学科のあらゆる語学科目と、経済・経営を理論と実践の両面から学ぶ諸科目は大きな力になる。経済の基礎知識を学んだ学生が、「地方自治体論」で地方自治体にとって独自の世界戦略や国際交流、自治体の広報戦略や地域振興策などについて学ぶことによって、まさに鬼に金棒の知見を獲得できるだろうと期待している。しかし、理論や一般論を具体的な文脈の中で実践的に活かしていける人材を育てるためにはもう一工夫が必要である。それは、自分の地域を十二分に研究し尽くし、その良さを理解するというところに他ならない。「北海道の地域と文化」では、北海道の自然・文化・人の豊かさを学び、北海道の良さを研究し、知・情・意すべてのレベルで北海道という地域に貢献しようとする人材を育てることを目指す。また、日本という《地域》を取り囲む世界に目を向けている学生には、国際協力とは何かという問題を考えながら、世界における日本の現状と課題、これからの方向性について国際人として必要な基礎的知見を学ぶ「国際協力論」を配置した。

### 教職トラック 選択 23 科目 44 単位

中学・高等学校教諭一種免許〈英語・中国語・日本語〉の取得に係わる教職課程科目を配置する。尚、本トラックの単位は卒業要件に含まない。

### 行動共通 選択 8 科目 16 単位

本学科の言語教育に欠かすことのできない科目として、学生の主体性による海外留学・多言語ボランティア等の参加体験型活動をサポートする科目として「総合言語実践Ⅰ～Ⅳ」「国際言語研修Ⅰ～Ⅳ」を配置する。

### 卒業研究 必修 4 単位

本学科の集大成ともいえる科目であり、従来の「卒業研究」の他、「フィールドワーク」など、自由度の高い「行動」系卒業研究科目を設置する。

## 8 施設、設備等について

### (1) 校地、運動場の現状

本学は、新千歳空港からJR千歳線で13分(13.6km)、人口約68,700人の恵庭市に所在し、恵庭駅から直線で徒歩約10分の場所に立地しております。近くには洞爺湖を源流とする清流「漁川」が流れ、周囲は広葉樹・針葉樹を植した市民公園及び静かな住宅街が広がり、落ち着いて集中し勉学に勤しむのにふさわしい環境が整っている。

また、正面に隣接する土地から、縄文時代後期(約3000年前)の墓が発掘され、漆塗りの装身具や櫛など多くの品が出土し、平成16年度に国の史跡に指定され、「カリンバ3遺跡」と命名された。これは本学の学生が学芸員の資格を取得するうえで、縄文時代の寒冷地での生活、習慣や風俗を学ぶ貴重な場所を提供することになる。

現在、本学は、校地を恵庭キャンパスに97,132m<sup>2</sup>所有しており、そこに校舎として教室、実習室、研究室、図書館、体育館、学生会館、学園管理棟等(一部2階・3階・4階建・10階建)26,537m<sup>2</sup>を配置し、学生に教育・課外活動を受けるにふさわしいスペースを用意している。

なお、設置認可申請中の「こども発達学科」用校舎として、平成21年度中に1,671m<sup>2</sup>を増築する予定で、延べ28,208m<sup>2</sup>の校舎等を配置することとなる。

運動施設としては、屋内体育館(2,415m<sup>2</sup>)の他、野球場兼サッカー場1面、テニスコート2面、多目的運動場及びパークゴルフ場1面を設置し、学生の公認サークル団体、同好会、愛好会及び一般学生等が授業及び課外活動で使用し、これからの日本を担う若者にスポーツを通し心身共に健全な大学生活を過ごしてくれることを願っている。本学の学生はもとより、市民にも開放し地域に根ざし住民と密着した大学を目指している。

大学全体の基準内共用施設は、一般教室、実験実習室、コンピューター室、図書館、保健室、自習室、学生ホール、研究室、会議室及び事務室等で、面積は23,949m<sup>2</sup>である。

また、大学全体の基準外共用施設は、体育館、その他(エレベータ、渡廊下、車庫及び倉庫)

で、面積は2,588m<sup>2</sup>であり、合計26,537m<sup>2</sup>である。

## (2) 校舎等施設の現状

外国語学部国際言語学科(教員19名、学生入学定員100名)を設置するにあたり、学生指導・環境の充実などを含め教育内容に充分対応できるよう、教室を含めた施設を有している。現有施設のうち、ことば行動学科で専用する教室等は以下のとおりである。

- 1) 教室 4室(50m<sup>2</sup>×4)
- 2) 国際交流センター 1室(56.4m<sup>2</sup>×1)
- 3) 研究室 22室(26.3m<sup>2</sup>×1、25.6m<sup>2</sup>×5、23.8m<sup>2</sup>×16)

また、国際言語学科としての共用施設面積(基準内、基準外を含め)としては、4,988m<sup>2</sup>である。

## (3) 図書等の資料及び図書館の現状

国際言語学科を設置するにあたり、コミュニケーション能力を生かし国際社会で自ら考え行動する力を養成するためのカリキュラムにそって、すでに図書 50,000 冊(和書 37,000 冊、洋書 13,000 冊)、学術雑誌 63 誌(和雑誌 40 冊、洋雑誌 23 冊)を整備している。整備されている学術雑誌のタイトルの一部は次のとおりである。

### [学術雑誌一覧]

- 国内雑誌
1. 言語研究
  2. 月刊言語
  3. 月刊日本語
  4. 國語國文
  5. 日本語学
  6. 英語教育
  7. 英語展望
  8. 中国 21
  9. 中国語ジャーナル
  10. 文学

- 外国雑誌
1. Communication Culture Package
  2. Language Learning
  3. Essays in Criticism
  4. College English
  5. Modern Language Journal
  6. 日本学刊

図書館は、ワンフロアで閲覧席、開架書架コーナー、メディアコーナー、インターネット検索コーナーを配している。キャレルデスクには、情報コンセントと電源コンセントが用意されており、パソコンを持ち込んでレポートを作成することやインターネッ

トを利用することができる。

また、検索コーナーにはインターネット端末を 12 台設置し、本学図書館ホームページ上から Genii や MAGAZIN-PLUS、JDream II、Japan Knowledge など各種オンラインデータベースに接続することができる。今後、電子ジャーナルも適宜整備を図っていく予定である。

図書館の機能が学習・教育研究活動に効果的に働くよう図書館蔵書検索 (OPAC) の使い方ガイダンスや図書館ツアー、データベースガイダンスを計画的に実施するとともに利用者からの高度で多様な質問にいつでも対応、回答できるレファレンス体制を整備していく方針である。

平成 11 年からコンピュータによる図書館総合管理システムを導入、国立情報学研究所 (NII) の NACSIS-CAT/ILL に参加し全国の国公私立大学図書館間の相互協力をはじめ、札幌近郊の大学図書館とも連携協力し、学生証や身分証を提示するだけで直接閲覧及び貸し出しサービスが受けられる「北海道地区大学図書館相互利用サービス」にも参加して相互協力の充実を図っている。

今後、なお一層の学習・教育研究支援機能の整備拡充を計り、最新情報の発信機能を重視した図書館サービスの充実を図る。

## 9 入学選抜の概要

外国語学部教育理念に基づき新学科が求める資質の高い学生を如何に選抜するかが必須である。それには学部学科として次のようなアドミッションポリシーを定め、基礎学力はもとより可能性が豊富な人材を選抜することが重要であり、選抜する側においても明確な基準を共有し、教員相互の共通認識としなければならない。面接試験については評価基準表に基づき選抜評価し判定会議(学科会議を経て入試委員会及び教授会)において合否判定される。また、教科目試験については本学並びに学園所属の教員からなる入試問題作成委員会の委員が問題を作成し、志願者の合否は合否判定会議(前述)において判定される。

本学外国語学部国際言語学科は、「ことば」によるコミュニケーションが、人と人との関係を築き上げる重要な道具であることを踏まえ、同時に人間が社会の中で行動してこそ輝く存在であることを重視し、「ことば」を活かし、その能力を発揮する場を、人と社会、人と人との関係の中で捉え追求している。このような捉え方を確立することにより、「ことば」を通して、学生の資質を高め、社会の様々な分野において求められている「国際教養人」を養成し、異文化間の問題解決能力、多言語によるコミュニケーション能力の育成、さらに将来の進路を見通した明確な目標設定を掲げ、個々の能力を発揮し、輝くことができる人材を育成することが、本学部の教育理念である。

### (1) アドミッションポリシー

#### 【教育目標】

社会の様々な領域や分野において、「ことば」によるコミュニケーション能力を活かし、自

らが考えて社会に一步踏み出す行動力を身につけた人材を養成することを目的としている。「人が好き」「ことばが好き」「新しいことに挑戦していく行動力」の3つのキーワードを基盤に、英語コース、中国語コース、日本語コースを設置し、各言語が持つ醍醐味を、少人数制で、きめ細かに、専門教育分野を横断して学ぶことで、人への関心、そして、人とつながることへの関心、また、ことばとことばを使うことへの関心を持つようになった学生の中に、ことばを使って何かをしたい、何かができる、と強く感じる心を育て、国際社会の中での問題に自ら取り組み、考えることができる学生の育成を目指す。

- ①英語コースでは、英語でコミュニケーションがなされるあらゆる場面において必要とされる姿勢、すなわち、絶えず協調の余地を示しつつも、自分の考えを主張する姿勢を、英語の表現や表現方法を学ぶことを通して身につけてもらうことを目指す。心で察し合う日本語と、ことばで理解し合う英語との間を自在に往き来できる語学力を持つことこそが、世界のどこにいても、真の「世界市民」であるための第一条件であるという認識を持ち、そのための努力を厭わない人材を育成することを目的とする。
- ②中国語コースでは、「中国語を中国語で理解する」人材を育成するため、ネイティブ教員と日本人教員が一丸となり徹底した語学教育を行うとともに、中国だけではなく、広く中華圏地域の文化や社会を深く理解することに力を注ぐ。これによって、高度な語学力を駆使し、アジア圏にとどまることなく、広くグローバルな社会で活躍できる人材を育成することを目的とする。
- ③日本語コースでは、日本語に対する感受性を磨き、豊かな表現力、論理的な思考力、総合的な判断力ができる人材の育成を図るとともに、多文化社会に対応できる創造的な人材を養成し、その資質の向上を図ることを目的とする。

#### 【求める学生像】

- ・ 知的好奇心に満ちあふれた学生
- ・ 国際社会の多様な問題に自ら進んで取り組もうと考えている学生
- ・ 地域社会や国際社会の中で、自らの能力を役立てたいと考えている学生
- ・ 多様な価値観への理解を自分の成長に結び付けようとする学生
- ・ 自らが見つけた課題に対し、継続的に取り組み続けることができる学生

#### (2) 選抜区分及び募集人員

学科定員	推薦入試	一般入試	センター入試	AO入試	特別入試	留学生入試
100名	40名	30名	15名	5名	若干名	10名

注1:特別入試とは社会人・帰国子女を対象とした入試

注2:留学生入試には国内留学生入試と海外留学生入試がある。

#### (3) 選抜区分による選抜方法等

- ① 推薦入試:高等学校での外国語または国語の成績が3年間を通じて評定平均が3.3以上あり、学校長が推薦する者。面接及び推薦書・調査書・志望理由書等により総合判定。
- ② 一般入試:「英語Ⅰ・Ⅱ(リスニングを含む)」または「国語総合(古文・漢文を含まない)」から1科

目選択。調査書・志望理由書・健康診断書等により総合判定。

- ③ センター入試:一般入試と同様。
- ④ AO 入試:アドミッションポリシーの要件を満たし、且つ学業および大学生活全般に主体的・積極的に取り組む意思のある者。エントリー及び数度の面談の結果、出願許可を与えた者を調査書・志望理由書等により総合判定。
- ⑤ 特別入試:社会人～高等学校を卒業した者及び高等学校卒業程度認定試験合格者並びに本学において高等学校を卒業したと同等と認められた者で出願時に満 23 以上の者。小論文、面接及び志望理由書・卒業証明書・履歴書(職歴がある場合)・健康診断書等により総合判定。  
帰国子女～外国において正規の学校教育制度に基づく高等学校に、最終学歴を含め2年以上継続して在籍し、学校教育における12年間の課程を指定の期日の期間までに修了または修了見込みの者。小論文・面接及び調査書・志望理由書・最終学校卒業(修了)証明書及び成績証明書・健康診断書等により総合判定。
- ⑥ 留学生入試:国内留学生入試～日本国籍を有しない者で、外国において学校教育における12年間の課程を修了した物及び指定の期日までに修了見込みの者。またはこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者等であり、国内の日本語教育機関で所定の教育時間を受け、成績証明できる者。「日本語」試験及び面接・関係書類にて総合判定。  
海外留学生入試、特に中国においては、本学協定校の関連日本語教育機関等で「日本語」を修学し、本学教員による現地での面接試験・書類審査等により総合判定する。事前に協定校との連絡調整を行い、9～10月の時期に中国にて行う。尚、募集人員が若干名であり学科定員に含まれるため、専任教員数や校地・校舎の整備状況に教育上支障が生じることはない。

#### (4) 科目等履修生の受け入れ

科目等履修生の受け入れについては若干名であり、基本的に教職課程での不足単位を補うことを目的とした場合が多い。まれに、海外の協定校や交流関係にある大学に在籍し、「日本語」等の学習を目的とする学生を受け入れる場合もある。したがって、受け入れの恒常化・受け入れ人数の規定等はしていない。受け入れ要望の都度、教務委員会及び国際交流委員会にて検討され、教授会にて受け入れ承認される。また、単位認定についても各委員会の議を経て教授会にて単位認定がなされる。

#### (5) 学生確保の見通し

2008年対2005年(5年間)の学部別志願者・入学者の増減比較で外国語系・国際教養系学部を比較してみた場合、昨今の外国語系学部の全国的な低迷を明らかにみることができる。志願者増が図られた外国語系学部では入学試験の負担減や新学科の増設を行った大学に限られる。一方で、外国語系学部と同じように言語を中心に据える国際教養系学部は、比較的難易度も高く多くの志願者が集まる大学は少なくない。国際教養系学部では全ての授業を英語で行い、留学が必須の大学も多く何かと特色がある。しかも社会で即戦力として駆使できる外国語の習得に加え、さまざまな教養を身につけられる点が志願者に高く評価されていると思われる。「何を話すか」「何を伝えたいか」が明確にあった上で、外国語を駆使する実像が

イメージし易いことが、志願増の要因であることは容易に理解できる。ここに外国語学部復活のニーズが存在すると本学は考える。

次に、外国語系学部の志願者離れの要因を分析すると下記の要素がある。

- ① 外国語＝英語のイメージが強く、英語を苦手とする志願者は出願しにくい。
- ② 外国語学部でなければ取得できない資格・免許が少ない。
- ③ 他系統学部・学科にも「外国語」「留学」「国際」を重点としたカリキュラム編成がある。
- ④ 英語を比較的得意とする女子志願者でも、全入時代の余波から分野を広げAO入試や推薦入試で早期に入学決定する傾向がある。

以上のような複数の要因が挙げられるが、北海道内に限ってみても、学部名称が異なっても外国語教育を行っている大学は札幌圏に数多く集中して存在する。中でも「国際交流」をキーワードに、独自の教育システムとカリキュラムを展開し、国際ビジネスと国際観光の分野で活躍する人材を育成するA大学がある。学部定員150名の2学科体制であり、2007年度427名の志願者に対し2009年度には710名の志願者となり、選抜するに十分な志願者増の傾向を示している。この大学では学ぶべき専門の他にバイリンガル教育を大きな特色としている。地の利からしても札幌圏からJR通学圏で不利である本学は、これら大学に比べても見劣りしない明確な特色を打ち出す必要がここにある。

【資料5】「学部別の志願者・入学者の増減数比較」「道内A大学の入試状況」参照

今回の国際言語学科の新設は3×6の新教育システムによる学生自らの主専攻言語の選定、及び専門科目行動科目群6トラックによる出口を強く意識したカリキュラム編成により、今までに増してパワーアップした外国語学部国際言語学科を打ち出せたと確信している。本学の外国語学部は開設以来10年の言語教育実践を通して確固たる実績を残してきたが、個人差が歴然と存在する外国語習得の状況にあって時代のニーズに敏感に反応し、対応してきたとは言いがたい。その反省と実績を糧に外国語学部不振の要因に応える形で本学部学科の特色を明確に示すことが志願者増への道筋と考える。

- ① 志願時に専攻言語を決定することなく、1年次では英語・中国語・日本語から2ゾーンを選択し、少人数教育で自らの適性を教員と共に理解し、母国語である日本語で言語教育の基礎も学ぶ。2年次では主専攻としての言語を選択決定し、徹底的に言語スキルを習得し、留学等に備える。
- ② 上位学年では中・高等学校教諭1種「英語」「中国語」「日本語」免許取得や日本語教員資格、学芸員資格も視野にいれながら、自らが積極的に話す話題や内容を見つけることに主眼がおかれる6トラックの教科群が用意されている。
- ③ これら専門科目行動科目群6トラックの履修をとおして、自らの専門性の深化を図ると共に、出口を意識した学習活動が学生自らの可能性を拡大する。
- ④ 複雑化・情報化が進む現代社会において、高校生の情報レベルで自らの将来を決定するのは大変厳しいものがある。モラトリアム人間に分類されがちなこの学生気質に明確な目標を示唆する大学があることを理解してもらう。

設置構想中であることを明言し、上記4項目を軸に新学科構想および3×6の教育システム

等について、僅か1ヶ月ばかりの期間ではあるが、進学相談会等での説明に対し受験生の反応を確認することができた。現状3学科体制を前提にブース相談に訪れた受験生であるので、最初は学部縮小のような印象を感じた者は少なくない。しかし、その内容が理解されるにつれ、積極的な質問や自分がこの学科に参画するイメージが、相談者自身容易にできる様子が多くみられた。これらのことから本学は外国語学部国際言語学科の学生確保について十分な手応えを確認している。

## 10 資格取得を目的とする場合

### (1) 教職資格

本学部は、これまでも教育職員免許法に基づき、免許状授与の所要資格を得させるための課程認定を受けており、この度の改組にあたっては再課程認定を申請し、卒業単位の他に別添資料に定める科目の所要の単位を修得することにより次の教職免許状を取得できる。

中学校教諭1種（英語、中国語、国語）

高等学校教諭1種（英語、中国語、国語）

\* 「教職課程科目」については、北海道文教大学学則（平成10年12月22日則第21号）別表第3 参照（設置届出書第7）

### (2) 学芸員資格

博物館法に定める学芸員資格取得のため、下記科目の履修者にはこれまでと同様に「学芸員資格証明書」を授与し学芸員への道を開くこととしている。

科目名	単位数	配当年次	開講時期
生涯学習概論	2	3	前期
博物館学Ⅰ	2	2	後期
博物館学Ⅱ	2	3	前期
博物館学Ⅲ	2	3	後期
博物館実習	3	4	前期
視聴覚教育メディア論（視聴覚教育論）	2	3	前期
教育学概論	2	2	後期

### (3) 日本語教員資格

別添資料の日本語教員養成課程科目表に基づく日本語教員養成課程の修了者には「大学日本語教員養成課程修了証明書」を授与し、日本語教育機関等への就職応募の資格を付与することとする。

【資料6】「大学日本語教員養成課程修了書取得に必要な科目・単位数」参照

## 11 インターンシップ等について

インターンシップについては、基本的にインターンシップを希望する学生の中から、意志および能力共に高い学生を、提出書類や面接などによって担当教員が厳選する。したがって、各年度において希望する学生の総数や、それらの学生の意志・能力の到達度などから、派遣学生人数は変動することが予測されるが、実習先の事情や状況を考慮する上でも少数精鋭の学生派遣が前提となる。

インターンシップ先は、学生の希望を前提とした業界・分野・領域に関連するあらゆる団体・組織を想定している。したがって、観光産業を例に考えると、観光地のホテルなどの宿泊施設といった企業だけではなく、観光振興や地域振興などを担当する官公庁の部署、NPOやボランティア団体など、営利・非営利の別を問わない。また、一過性のイベントやそれに付随するボランティアなどの活動への参加なども、一定の日数や要件を満たしていればインターンシップとみなす。また、インターンシップ希望学生の外国語能力によっては、海外でのインターンシップも認める。

### (1)インターンシップ実施について

インターンシップ先は基本的に学生の希望する派遣先を優先し、またその確保のプロセスも学習の一環として学生が積極的にこれを行う。

#### ①学生自身によるインターンシップ派遣先の開拓と確保

情報誌・旅行会社主催によるもの。(例：リクルート・毎日コミュニケーションズ・JTB・ラストリゾートなど国内外インターンシップ)

#### ②大学によるインターンシップ先の確保および支援

##### 【大学で加盟している諸団体等】

北海道経営者協会（インターンシップ事業推進室）会員企業 330 社

札幌商工会議所（札幌インターンシップ推進協議会）会員企業 24000 社

北海道中小企業同友会（支部単位で実施）会員企業 5200 社

##### 【その他】

洞爺湖温泉観光協会・洞爺湖町役場観光振興課

派遣先の確保については二つの流れが想定される。学生の自主性と社会経験の蓄積を尊重するなら、①が理想的であるが、全ての学生が自らインターンシップ先を確保できるとは限らないので、大学の持つリソースやネットワークを最大限活用して、学生のインターンシップ実現を支援する。特に観光産業への就職が多い本学の特色を生かして、卒業生が就職している実績ある企業・団体・組織を中心にインターンシップ先確保を行っている。

本学では、これまでも就職支援活動の一環として、就職を希望する学生に個人単位でのインターンシップが実現するよう支援してきた。これは主に本学事務局就職部就職課が経営者協会との連携によって行っているもので、授業化された観光産業インターンシップにおいても、このつながりを活用してインターンシップ先の確保が行われている。また、単位化されたインターンシップは評価がからむので、本学事務局学務部教務課も派遣先とのやりとり、特に評価に関わる部分については主要な連絡の窓口となる。派遣先確保と評価については、以上のような事務局関連部局と担当教員の緊密な連携・協力体制をもってあ

たるものとする。

学外実習の単位認定についても、本学ではこれまで学外での実習、研修やボランティア活動などを単位認定してきた実績がある。その中でも顕著なのが、2008年に洞爺湖で行われたG8サミットの開催地である洞爺湖町への、約40名の通訳ボランティアの派遣である。これは、洞爺湖町からの正式な依頼に基づくボランティア派遣であり、本学では社会経験を積む実習の一つとして「海外・研修」を参加者に単位認定している。サミット・ボランティアを含むこれまでの実習・研修によって培った、洞爺湖町や胆振支庁などの地方自治体とのつながりをはじめ、各地の観光協会などを窓口として、学生のインターンシップ派遣先確保を支援する。

## (2) 評価方法等

インターンシップの評価は、インターンシップ実施期間中のみならず、インターンシップ先の開拓からインターンシップ終了後の報告にいたる全過程を対象とする。成績評価は、インターンシップ前、インターンシップ期間、インターンシップ後における学生の活動・能力・態度を派遣先の評価や学生の報告などを参考に、教員が以下の4つの能力に対する評価を総合して包括的に行う。

- ①「社会的コミュニケーション能力」(インターンシップ先開拓能力とインターンシップ先とのコミュニケーション能力)。
- ②インターンシップ先についての事前の「業務研究」(業務に関する知識・理解)。
- ③「実践能力」(実際の業務遂行に対する積極性)。
- ④「プレゼンテーション能力」(インターンシップ後の学生による報告プレゼンテーションおよび報告書の提出)。

学生は、インターンシップ期間中のみならず、その前後もかなりの分量を評価されることから、インターンシップへのより自主的参加が促され、事前準備や事後報告などの社会的実践も学び評価される。

## 12. 管理運営

本学の建学の精神と教育理念を具現化し、教育研究活動を推進するためには、学長のリーダーシップが発揮できる学内の運営体制の確立が重要である。

学長は、教学組織の最高責任者であり、教授会は、本学の教学面における審議機関である。教授会は、学長が招集しその議長となる。また、教授会の構成員、審議事項及び開催予定は次のとおりである。

- (1) 構成員 (北海道文教大学教授会規程第1条)  
学長、副学長、本学専任の教授、准教授及び講師
- (2) 教授会の審議事項 (北海道文教大学教授会規程第2条)
  1. 教育課程に関する事項
  2. 学術研究に関する事項

3. 学生の入学、退学、転学、休学及び卒業に関する事項
4. 学生の試験に関する事項
5. 学生団体、学生生活及び学生生活に関する重要な事項
6. 学生の賞罰に関する事項
7. その他本学の教育研究に関する重要な事項

(3) 開催

毎月第3水曜日を定例とする。(8月は休会)

## 13 自己点検・評価の対応

### (1) 自己点検・評価への取り組み

自己点検評価については、平成12年に「北海道文教大学自己点検・評価委員会」が発足し、平成13年度に外国語学部専任教員の経歴と研究業績を収録した北海道文教大学『研究者総覧』を発行。平成14年度に学生生活実態調査と学生による授業評価からなる北海道文教大学『自己点検・評価報告書2002』を出版した。

鶴岡学園の財務に関しては、平成11年度以降毎年『北海道文教広報』を通じて公表している。

このように本学では大学の実状をそのつど一般に公表して大方の批判を仰ぐと共に、大学改革の糧にしてきたが、平成13年度に人間科学部及び大学院の新設並びに短期大学部の併合があり、それまでの自己点検・評価の枠を破り大学全体として第三者評価及び外部評価に取り組むため、平成15年度に「北海道文教大学自己点検・評価委員会」を発展的に解消し、「北海道文教大学、北海道文教大学大学院及び北海道文教大学短期大学部大学評価委員会」を発足させた。

新「大学評価委員会」の下では『2004年度北海道文教大学年鑑』（CD-R版、2005年3月）の編集・刊行した。これは第一章「大学の理念と教育目標」、第二章「学則及び各種委員会規程等」、第三章と第四章は大学基準協会が第三者評価に求めている「大学基礎データ」と「専任教員の教育研究業績」、第五章は外国語学部と人間科学部で平成16年度に開講された全授業科目の履修状況、第六章が平成16年度後期開講になる大学、短期大学部、大学院の全授業科目を対象にアンケート形式で実施した学生による授業評価の集計、第七章が大学・短大生全員を対象とした「2004年度学生生活実態調査」、そして最後の第八章「2004年度公開講座実施報告」からなっており、ここには、平成16年時点で公表可能な教育研究及び財務に関する資料のすべてが収録されている。

平成18年度には、大学基準協会による「加盟判定審査（認証評価）」を受け、大学基準協会が定める大学基準に適合しているものとして承認されている。

当該認証評価に係る調書及び評価結果については、平成19年度に本学ホームページ上で公開した。

### (2) 実施体制と方法

「北海道文教大学、北海道文教大学大学院及び北海道文教大学短期大学部大学評価委員会」は、学長、学部長、研究科長、短期大学部副学長、図書館長、事務局長、各学科選出の教員及び学長が指名する者若干名をもって構成している。

委員会は、基本方針を策定し、自己点検評価の円滑な実施をはかり、報告書の作成及び公表の義務を負う。点検・評価の実施に当たっては、年度ごとに大学評価委員会が具体的な取り組みの対象と範囲及び方法等を定め、各学科、研究科、事務局、附属図書館及び各種委員会等の学内組織が「自己点検実施主体」を構成し、それぞれ実施に当たっている。

「自己点検実施主体」は、基本方針に基づき実施日程を策定し、資料を収集して、大学評価委員会及び教授会と密接に連携を保ちつつ自己点検を行い、付託された項目について現状の報告・分析を行い目標到達度に関して報告書を大学評価委員会に提出する。

大学評価委員会は、自己点検実施主体の報告書を精査し、現状分析に瑕疵がある場合は再調査を依頼し、大学評価の結果、改善の必要があるものについては具体的方策の提示を求める。

最終的に、大学評価委員会が自己点検実施主体の報告書を取りまとめ、教授会の議を経て、これを公表している。

### (3) 点検・評価の基本項目

本学では自己点検・評価の実施にあたり、その基本項目を下記のように定めている。しかし、本学の自己点検・評価は、すべての項目を全学的に毎年実施するものではない。ちなみに平成17年度は外国語学部と短期大学部が平成18年度認証評価を受けるため全項目についての自己点検・評価を実施しているが、人間科学部は、完成年度に達していないので、全面的な点検対象に含まれない。

平成20年度には、人間科学部健康栄養学科が学年進行を終え学生を送り出し2年目を迎えたことで、当初掲げた学科の使命・目的、教育目標等について、その達成状況を自己点検・評価し、今後の健康栄養学科の運営について考えるため、その作業に着手している。

[基本項目]

- ① 大学・学部の理念・目的・教育目標、② 教育研究組織、③ 教育研究の内容・方法と条件整備、④ 学生の受け入れ、⑤ 教育研究のための人的体制、⑥ 施設・設備、⑦ 図書館及び図書等の資料、学術情報、⑧ 社会貢献、⑨ 学生生活への配慮、⑩ 管理運営、⑪ 財政、⑫ 事務組織、⑬ 自己点検・評価の組織体制

### (4) 結果の活用及び公表

自己点検・評価の結果については、大学評価委員会が報告書を作成し、教授会の議を経て学内外に公表する。

平成18年度に受けた、大学基準協会による「加盟判定審査」の調書及び評価結果を本学ホームページ上で公開している。

また、本学では教育研究水準の向上、管理運営の円滑化を促進する目的で、自己点検・評価及び「加盟判定審査」結果を積極的に活用している。長所とされる事項については、

さらに伸張するようにし、大学基準に照らしてふさわしくないとされる事項については、その改善方策策定の指針として活用し、大学の質的レベル保持、向上に努めている。

## 14 情報の提供

教育研究活動に関わる情報の開示は大学の社会的責務であるばかりでなく、大学の質的向上にも必須の条件であるとの認識から、本学では開学以来、大学の各種情報を積極的に開示して、大方の批判を仰ぎ大学改革の糧にしてきた。

専任教員の経歴と研究業績に関しては平成 13 年度に外国語学部の『研究者総覧』を発行し、平成 16 年度には外国語学部と人間科学部に所属する全専任教員の教育研究業績を『2004 年度北海道文教大学年鑑』(CD-R)に収録・公表した。また、平成 19 年度に本学専任教員の教育・研究業績(平成 18 年度大学評価資料)を本学ホームページ上で公開した。公開講座については、毎年、恵庭市及び近隣市町村の住民を対象に、講義と実習中心に講座を開催し、多数の参加を得ている。

Web 上の情報(ホームページ)では、「北海道文教大学ホームページ委員会」の管理の下に、最新のトピックスを提供できるようにしており、平成 19 年度に「認証評価」に係る調査及び評価結果を、平成 20 年度に最近設置した人間科学部の理学療法学科(平成 18 年)、作業療法学科(H19)及び看護学科(H20)に係る学科設置申請書・届出書を公開している。また、各学部、学科ごとの紹介記事では教員一覧を載せ、専任教員の研究テーマの一部を公開し、関連記事にリンクを張っている。

教員の研究活動の成果は、本学が出版する 2 種類の学術雑誌で閲覧することができる。ひとつは短期大学時代に端を発する北海道文教大学『研究紀要』通算 33 号で、他は大学開設以来の歴史を持つ『北海道文教大学論集』通算 10 号である。これらの雑誌はいずれも年 1 回刊行し、大学及び関係機関に配布している。これらの論文は電子化されており、附属図書館のホームページを通じ Web 上で閲覧できるようになっている。

以上の他、本学が出版する印刷物には『学生便覧』(「学園生活の手引き」と「シラバス」)、『図書館利用案内』及び鶴岡学園の広報誌『北海道文教広報』等がある。

## 15 教員の資質維持向上の方策

本学には、学部、大学院研究科及び短期大学部における体系的教育課程の開発と実施体制の強化、ファカルティ・デベロップメント(FD)と教育方法の改善ならびにグッドプラン(GP)開発・促進に関する検討を行い、本学の教育を活性化する目的で、平成 17 年度に北海道文教大学教育開発センターが設置されている。

当該教育開発センターは、センター長(学長)、副センター長、センター員(3 部門長)及びセンター専門職員から成り、教育開発センター運営委員会の下に「カリキュラム開発部門」、「FD 授業改善部門」及び「GP 部門」が置かれている。

「FD 授業改善委員会」の主たる任務は、FD の研究開発、授業評価、カリキュラムの検討

改革、及びFD研修会の実施である。

## (1) FD

大学設立の翌年の平成12年から、これまでに大学・短期大学部の教職員を対象に8回のFDに関する講演会・研修会を行ってきた。

取り上げたテーマは次のとおりである。

- ① 「学生による授業評価と授業改善」(講演)
- ② 「大学改革における教育職員と事務職員の組織的連携」(講演)
- ③ 「パワーポイント研修講座」(研修)
- ④ 「専門職としての大学教員と授業研究」(講演)
- ⑤ 「2002年度<学生生活実態調査>及び<授業改善のためのアンケート>について」(報告)
- ⑥ 「パワーポイントの作り方・使い方」(研修)
- ⑦ 「学生の創造性を生かす授業」(講演)
- ⑧ 「2005年度自己点検・評価を終えて—現状と課題—」(報告)
- ⑨ 「ファシリテーション技法を生かした授業実践」  
—指導する教育から支援する教育へ— (ワークショップ形式の応用)
- ⑩ 「大学における実務教育のあり方と実務家教員の役割」(講演)

このように本学のFD活動は、最初、外部の講師を招いて、FDのあり方、学生による授業評価の活用方法、プレゼンテーション・ツールとしてのパワーポイントの使い方などについて講演会を開催し勉強を続けてきたが、平成16年には学内で研修会が開けるまでに成長した。今後ともこのような講演会・研修会を定期的で開催して研鑽を重ね、さらに教職員の授業内容・方法に対する改善意識を向上させると共に、教職員どうしの共同体意識の形成に結びつけるようにしていきたい。

新国際言語学科においても、独自にFDチームを編成し、授業改善のための課題を整理し、継続的にFD活動に取り組む体制を整えていく。

当面の課題としては、3学科の教育課程から1学科の教育課程へと移行するに当たり、このことに対する教員の意識改革ときめ細かな教育実践上の改革が求められており、この新カリキュラムに対処するため、①統合された教育分野での調整とその確認、②当該調整が授業に反映されているかシラバスでのチェック、③授業に対する学生評価アンケート及び公開授業を通しての教職員による授業評価の実施などを行い、新カリキュラムを軌道に載せていくことであると考えている。

また、本学科と同様の学科統合を経験している大学から講師を招いて、事例研究的な研修会をも企画し、教育改善へと結びつけていきたい。

## (2) 授業評価

学生による授業評価に関しては、平成14年5月の教授会で「学生による授業評価に関する基本方針」が策定され、第1回授業評価は平成14年6～7月に実施された。これは、外

国語学部が完成年度に達したのを機に、開学以来4年間の教育課程を検証し、授業改善のための基礎資料を収集する目的で、全学の教育体制に関する〈共通型〉と個々の授業に関する〈個別型〉に分けて実施したアンケート調査である。

その学科目別集計と分析とを行ったのが『自己点検・評価報告書2002』（2003年1月）で、平成16年3月に大学評価委員会副委員長から詳細な報告が学内研修会で行われ、双方向授業及びパワーポイントの有効性について貴重な示唆があった。

第2回目の学生による授業評価は、平成16年度後期開講になる大学・大学院及び短期大学の全授業科目を対象に実施した。調査対象が外国語学部1学部から全学に拡大されたこともあって、調査項目も第1回の7項29問から4項39問と自由記述に変わった。その調査結果は、学科目別集計だけでなく、全授業科目について質問項目の5段階評価の中間値を担当者の氏名を付して『2004年度北海道文教大学年鑑』（CD-R）に収録されている。

第3回目の学生による授業評価は、平成17年度の前期開講の全科目を対象に実施した。調査項目を第2回目のときに39問と多岐にわたるデータを収集したが、細かすぎて全体像が見えにくいという反省から19問にしぼり込んだものにし、各問いごとに五段階評価を行った。その結果を授業科目ごとに履修人員、アンケートに答えた人員、五段階評価の中間値を付して、学部・学科別及び個人別に集計して、教員に知らせると共に図書館に配置し閲覧に供している。

以降、平成18年度後期開講授業科目、平成19年度前期開講授業科目、平成20年度後期開講授業科目について同様の方法で実施している。

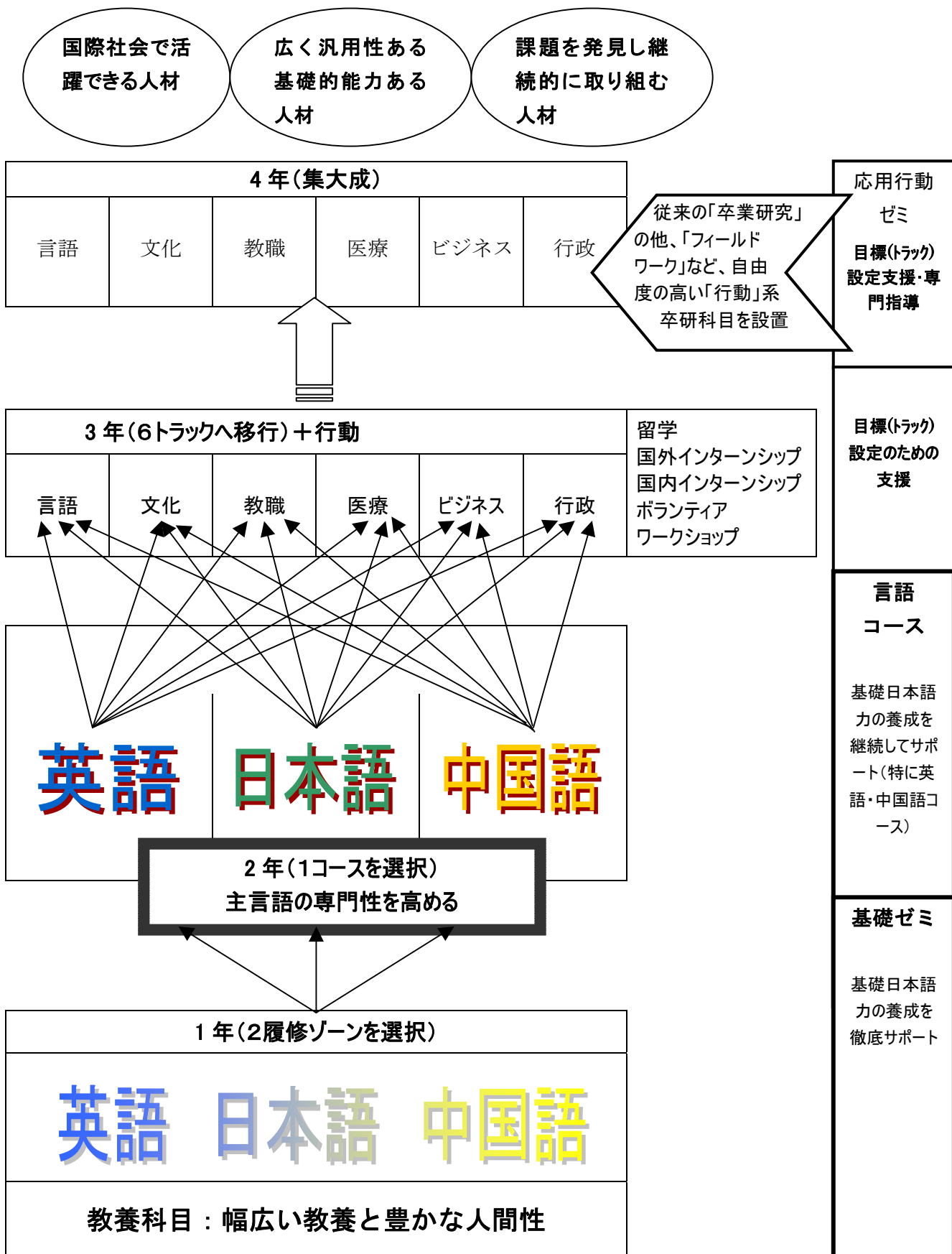
学生による授業評価は、もとより、授業を改善するための基礎資料を収集するための作業に過ぎない。これらをもとに改善策を立て、授業にフィードバックする方法の一つとして、授業形態・授業方法の適切性、有効性を検証するために「教員による授業の自己評価」が平成18年度から導入され、これらの資料が学科に返却されることで、学科・学部単位で授業改善及び教員の資質向上を推進させるシステムが出来あがった。

また、平成18年度には公開授業が7月中旬に、英米語コミュニケーション学科、中国語コミュニケーション学科、日本語コミュニケーション学科及び健康栄養学科で実施され、公開授業の一部の概要は、平成18年度版「教育開発センター年報」に記載されている。平成20年度には英米語コミュニケーション学科、日本語コミュニケーション学科、健康栄養学科、及び看護学科で実施している。

教員の資質の維持向上策についての今後の取り組みとしては、平成18年6月に教育開発センターに設置されたFD授業改善部門で、カリキュラム開発部門及びGP部門と密接に連携を取りながら、研究・開発を進め、暫時、実践に移す取り組みを進めていく。

**教育理念と教育課程の構成**

外国語学部 国際言語学科 定員 100 名



1-1. 英語通訳者・翻訳家 養成

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	1年次		2年次		3年次		4年次			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	ことばのしくみ							
				異文化間コミュニケーション論 サイバースペース入門								
	教養科目群	人間と文化	人間の思想	世界の芸術	心理学概論	教育学						
		社会と制度										
		自然と科学			人間と住居							
		外国語										
留学生												
スポーツと健康	生涯スポーツⅠ	生涯スポーツⅡ										
ことば科目群	英語	総合英語演習ⅠA(1)	総合英語演習ⅠA(1)	英米の生活と文化	ドラマチック・コミュニケーション							
		総合英語演習ⅠA(2)	総合英語演習ⅠA(2)	コミュニカティブ・イングリッシュⅠA(1)	コミュニカティブ・イングリッシュⅠA(1)							
		総合英語演習ⅠB(1)	総合英語演習ⅠB(1)	コミュニカティブ・イングリッシュⅠA(2)	コミュニカティブ・イングリッシュⅠA(2)							
		総合英語演習ⅠB(2)	総合英語演習ⅠB(2)	コミュニカティブ・イングリッシュⅠB(1)	コミュニカティブ・イングリッシュⅠB(1)							
		CAIイングリッシュ演習Ⅰ	CAIイングリッシュ演習Ⅱ	コミュニカティブ・イングリッシュⅠB(2)	コミュニカティブ・イングリッシュⅠB(2)							
		初級検定英語Ⅰ	初級検定英語Ⅱ	CAIイングリッシュ・マスタリーⅠ	CAIイングリッシュ・マスタリーⅡ							
	中国語											
	日本語	日本語文章表現法演習Ⅰ	日本語文章表現法演習Ⅱ	日本語コミュニケーション技法	世界の言語と日本語							
		日本語音声表現法演習Ⅰ	日本語音声表現法演習Ⅱ	ベーシックプレゼンテーション	アクティブプレゼンテーション							
	ことば共通	非言語による自己表現	日本語と日本文化									
専門科目	言語プロフェッショナル							英語統語論		通訳英語	翻訳英語	
								上級検定英語				
								英語意味論	音声学への招待			
	行動科目群	文化探求						日英対照言語学				
								欧米地域文化論	環太平洋地域文化論	日米文化比較	英米の思想	
		教職							英語の小説	現代英語圏のすがた		
										英語の詩		
		国際観光ビジネス							メディカル・イングリッシュ			
									ビジネス・イングリッシュ			
	地域貢献							観光英語				
								北海道の観光				
卒業研究										卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ	

1-2. 中国語通訳者・翻訳家 養成

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	1年次	1年次	2年次	2年次	3年次	3年次	4年次	4年次
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミⅠ 総合教養講座	基礎ゼミⅡ 異文化間コミュニケーション論	ことばのしくみ					
		人間と文化	人間の思想	世界の芸術	心理学概論					
	教養科目群	社会と制度								
		自然と科学	自然と環境							
		留学生				朝鮮語Ⅰ	朝鮮語Ⅱ			
		スポーツと健康								
		英語								
専門科目	ことば科目群	中国語	中国語の基礎演習Ⅰ(1)	中国語の基礎演習Ⅱ(1)	速修中級中国語Ⅰ(1)	速修中級中国語Ⅱ(1)	速修上級中国語Ⅰ(1)	速修上級中国語Ⅱ(1)		
			中国語の基礎演習Ⅰ(2)	中国語の基礎演習Ⅱ(2)	速修中級中国語Ⅰ(2)	速修中級中国語Ⅱ(2)	速修上級中国語Ⅰ(2)	速修上級中国語Ⅱ(2)		
			中国語の発展演習Ⅰ(1)	中国語の発展演習Ⅱ(1)	中級検定中国語Ⅰ	中級検定中国語Ⅱ				
			中国語の発展演習Ⅰ(2)	中国語の発展演習Ⅱ(2)	話す中国語Ⅰ	話す中国語Ⅱ				
			中国へのアプローチ	初級検定中国語	聴く中国語Ⅰ	聴く中国語Ⅱ				
			発音チェック中国語	漢字のしくみ	書く中国語Ⅰ	書く中国語Ⅱ				
		日本語	日本語文章表現法演習Ⅰ	日本語文章表現法演習Ⅱ						
			日本語音声表現法演習Ⅰ	日本語音声表現法演習Ⅱ						
			言語による自己表現				ことばと心			
			非言語による自己表現				ことばと社会 アクティブプレゼンテーション			
			ことば共通							
	行動科目群	言語プロフェッショナル						通訳中国語		日中対照言語学
							翻訳中国語 上級検定中国語			
		文化探求						音声学への招待 環太平洋地域文化論		
								漢文を楽しむ	日中文化比較 中華圏の文学と芸術	中華圏の社会と文化
国際観光ビジネス		教職						情報処理中国語	観光ガイド中国語	
		医療事務								
			地域貢献				ビジネス中国語	北海道の観光		メディア中国語
			行動共通				北海道の地域と文化	時事中国語		
		卒業研究						卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ	

1-3. 日本語教師 養成

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	前期		後期		前期		後期		前期		後期		
			1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期					
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	ことばのしくみ										
			総合教養講座	異文化間コミュニケーション論											
	教養科目群	人間と文化	人間の思想		心理学概論	教育学									
		社会と制度	現代社会と法 現代社会と政治		現代社会と経済	現代社会とキャリアプラン									
		自然と科学													
外国語 留学生 スポーツと健康															
ことば科目群	英語		総合英語演習IA(1) 総合英語演習IA(2)	総合英語演習IIA(1) 総合英語演習IIA(2)											
	中国語														
	日本語	日本語文章表現法演習Ⅰ	日本語文章表現法演習Ⅱ	現代日本語論	世界の言語と日本語										
		日本語音声表現法演習Ⅰ	日本語音声表現法演習Ⅱ	日本語コミュニケーション技法	日本の文学作品を読む										
		日本語学演習Ⅰ 現代日本語文法演習 言語による自己表現 非言語による自己表現	日本語学演習Ⅱ 日本語教育基礎演習 日本の漢字と言語生活 日本語と日本文化	現代日本語のフィールドワーク 日本語教授法Ⅰ	ことばと心 ことばと社会 ベーシックプレゼンテーション アクティブプレゼンテーション 日本語教授法Ⅱ 音韻から見える日本語の諸相										
ことば共通															
専門科目	言語プロフェッショナル							日本語教育実践Ⅰ	日本語教育実践Ⅱ						
								アカデミックライティング技法							
	行動科目群	文化探求						日英対照言語学	言語行動学						
		教職						早期外国語教育論	音声学への招待						
		医療事務						クリエイティブライティング	日本語の構造						
		国際観光ビジネス							環太平洋地域文化論	日米文化比較					
		地域貢献						日本の信仰と生活 書道・書道史Ⅰ 視聴覚教育論	書道・書道史Ⅱ						
		行動共通							マスメディア論	日本語実践運用法					
卒業研究						オフィスライティング 北海道の地域と文化 国際関係論	地方自治体論 国際協力論					卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ		

2-1. 中国語関連分野大学院進学者 養成

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	1年次	1年次	2年次	2年次	3年次	3年次	4年次	4年次
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	ことばのしくみ					
		人間と文化	人間の思想	世界の芸術	心理学概論					
	教養科目群	社会と制度	現代社会と法 現代社会と政治	現代社会と福祉	現代社会と経済					
		自然と科学	自然と環境							
		外国語								
		留学生 スポーツと健康								
専門科目	ことば科目群	英語	総合英語演習ⅠA(1) 総合英語演習ⅠA(2)	総合英語演習ⅡA(1) 総合英語演習ⅡA(2)						
		中国語	中国語の基礎演習Ⅰ(1)	中国語の基礎演習Ⅱ(1)	速修中級中国語Ⅰ(1)	速修中級中国語Ⅱ(1)	速修上級中国語Ⅰ(1)	速修上級中国語Ⅱ(1)		
			中国語の基礎演習Ⅰ(2)	中国語の基礎演習Ⅱ(2)	速修中級中国語Ⅰ(2)	速修中級中国語Ⅱ(2)	速修上級中国語Ⅰ(2)	速修上級中国語Ⅱ(2)		
			中国語の発展演習Ⅰ(1)	中国語の発展演習Ⅱ(1)						
			中国語の発展演習Ⅰ(2)	中国語の発展演習Ⅱ(2)	話す中国語Ⅰ	話す中国語Ⅱ				
		中国へのアプローチ		聴く中国語Ⅰ	聴く中国語Ⅱ					
	日本語	日本語文章表現法演習Ⅰ 日本語音声表現法演習Ⅰ	日本語文章表現法演習Ⅱ 日本語音声表現法演習Ⅱ							
	ことば共通				ことばと心 ことばと社会 ベーシックプレゼンテーション	アクティブプレゼンテーション				
	行動科目群	言語プロフェッショナル								
		文化探求					欧米地域文化論 英語の小説 漢文を楽しむ	環太平洋地域文化論	日米文化比較 日中文化比較 中華圏の文学と芸術	中華圏の社会と文化
							日本の信仰と生活 日本古典文学史	近現代文献で読む日本文化		
		教職								
		医療事務								
国際観光ビジネス							情報処理中国語	観光ガイド中国語		
地域貢献 行動共通					ビジネス中国語 北海道の地域と文化	時事中国語				
卒業研究								卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ	

2-2.日本の大学院へ進学する留学生 養成

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	1年次	1年次	2年次	2年次	3年次	3年次	4年次	4年次
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	ことばのしくみ					
			総合教養講座	異文化間コミュニケーション論						
	教養科目群	人間と文化	人間の思想	現代社会と福祉	心理学概論					
		社会と制度	現代社会と法	現代社会と政治	現代社会と経済					
		自然と科学	自然と環境		人間と住居					
		外国語								
留学		日本事情								
スポーツと健康										
ことば科目群	英語	総合英語演習ⅠA(1)	総合英語演習ⅡA(1)							
		総合英語演習ⅠA(2)	総合英語演習ⅡA(2)							
	中国語									
	日本語	日本語文章表現法演習Ⅰ	日本語文章表現法演習Ⅱ	現代日本語論	世界の言語と日本語					
		日本語音声表現法演習Ⅰ	日本語音声表現法演習Ⅱ	日本語コミュニケーション技法	日本の文学作品を読む					
		日本語学演習Ⅰ	日本語学演習Ⅱ	現代日本語のフィールドワーク	ことばと心					
		現代日本語文法演習	日本語教育基礎演習	日本語教授法Ⅰ	ことばと社会					
		言語による自己表現	日本の漢字と言語生活	ベーシックプレゼンテーション	アクティブプレゼンテーション					
		非言語による自己表現	日本語と日本文化		音韻から見える日本語の諸相					
	ことば共通									
専門科目	言語プロフェッショナル					翻訳中国語	アカデミックライティング技法		日中対照言語学	
							言語行動学			
	文化探求						クリエイティブライティング	日本語の構造		
							コピライティング			
							漢文を楽しむ		日中文化比較	中華圏の社会と文化
							日本の信仰と生活			
	行動科目群	教職					書道・書道史Ⅰ	近現代文献で読む日本文化		
		医療事務								
		国際観光ビジネス						マスメディア論		日本語実践運用法
								オフィスライティング		
地域貢献						ビジネス作法	国際経済学			
							北海道の観光			
	行動共通					北海道の地域と文化		国際政治経済学		
						国際関係論	国際協力論			
卒業研究								卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ	

3-1.英語教諭

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	1年次	1年次	2年次	2年次	3年次	3年次	4年次	4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミⅠ 総合教養講座	基礎ゼミⅡ 異文化間コミュニケーション論 情報処理Ⅱ サイバースペース入門	ことばのしくみ						
			人間と文化	世界の芸術		教育学					
	教養科目群	社会と制度	現代社会と法 現代社会と政治								
		自然と科学									
		外国語			ロシア語Ⅰ	ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅲ	ロシア語Ⅳ			
		留学生									
スポーツと健康	生涯スポーツⅠ	生涯スポーツⅡ									
ことば科目群	英語	総合英語演習ⅠA(1)	総合英語演習ⅠA(1)	英米の生活と文化	ドラマチック・コミュニケーション						
		総合英語演習ⅠA(2)	総合英語演習ⅠA(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(1)	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(1)						
		総合英語演習ⅠB(1)	総合英語演習ⅠB(1)	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(2)						
		総合英語演習ⅠB(2)	総合英語演習ⅠB(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅠB(1)	コミュニケーション・イングリッシュⅠB(1)						
		CAIイングリッシュ演習Ⅰ	CAIイングリッシュ演習Ⅱ	コミュニケーション・イングリッシュⅠB(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅠB(2)						
		初級検定英語Ⅰ	初級検定英語Ⅱ	CAIイングリッシュ・マスターⅠ	CAIイングリッシュ・マスターⅡ						
中国語											
日本語	日本語文章表現法演習Ⅰ	日本語文章表現法演習Ⅱ									
	日本語音声表現法演習Ⅰ 言語による自己表現 非言語による自己表現	日本語教育基礎演習	日本語教授法Ⅰ	ことばと社会							
ことば共通											
専門科目	言語プロフェッショナル				英語教授法Ⅰ	英語教授法Ⅱ	英語統語論	通訳英語	翻訳英語		
						上級検定英語	日英対照言語学 早期外国語教育論	音声学への招待			
	文化探求					英語の小説	現代英語圏のすがた 英語の演劇	日米文化比較	英米の思想		
							日本の信仰と生活	英語の詩			
	行動科目群	教職		教育原理論 青年心理学	教職原論 教育心理学	教育課程概論 英語科教育法Ⅰ	教育行政論 英語科教育法Ⅱ	事前事後指導 生涯教育論	事前事後指導 中学校教育実習	教職実践演習	
							生徒指導の研究Ⅰ	生徒指導の研究Ⅱ	高等学校教育実習		
							視聴覚教育論	道徳教育の研究			
							特別活動の研究				
	上記の教職科目に加えて、「ことば科目群」、「行動科目群」の中に記載された、英語・中国語・国語の指定専門科目を履修しなければなりません。										
	医療事務										
国際観光ビジネス											
地域貢献						北海道の地域と文化					
行動共通						時事英語					
卒業研究								卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ		

3-2. 国語教諭 養成

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	1年次	1年次	2年次	2年次	3年次	3年次	4年次	4年次
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	ことばのしくみ					
			総合教養講座	異文化間コミュニケーション論						
	教養科目群	人間と文化	人間の思想	世界の芸術	心理学概論	教育学				
		社会と制度	現代社会と法	現代社会と福祉						
		自然と科学			朝鮮語Ⅰ	朝鮮語Ⅱ				
		留学生								
スポーツと健康	生涯スポーツⅠ	生涯スポーツⅡ								
専門科目	ことば科目群	英語	総合英語演習ⅠA(1)	総合英語演習ⅠA(1)						
		中国語	総合英語演習ⅠA(2)	総合英語演習ⅠA(2)						
	日本語	日本語文章表現法演習Ⅰ	日本語文章表現法演習Ⅱ	現代日本語論	世界の言語と日本語					
		日本語音声表現法演習Ⅰ	日本語音声表現法演習Ⅱ	日本語コミュニケーション技法	日本の文学作品を読む					
		日本語学演習Ⅰ	日本語学演習Ⅱ	現代日本語のフィールドワーク	ことばと心					
		現代日本語文法演習	日本語教育基礎演習	日本語教授法Ⅰ	ことばと社会					
	言語による自己表現	日本の漢字と言語生活	ペーソックプレゼンテーション	アクティブプレゼンテーション						
	非言語による自己表現	日本語と日本文化	日本近現代文学史	日本語教授法Ⅱ						
	ことば共通		古典文法が拓く世界	音韻から見える日本語の諸相						
	言語プロフェッショナル							アカデミックライティング技法	日本語手話	
							言語行動学	音声学への招待		
文化探求							日本語の構造			
							早期外国語教育論			
行動科目群	教職		教育原理論	教職原論	教育課程概論	教育行政論	事前事後指導	事前事後指導	教職実践演習	
			青年心理学	教育心理学		生涯教育論	中学校教育実習			
					生徒指導の研究Ⅰ	生徒指導の研究Ⅱ	高等学校教育実習			
					国語科教育法Ⅰ	国語科教育法Ⅱ	道徳教育の研究			
医療事務										
国際観光ビジネス					オフィスライティング	マスメディア論	日本語実践運用法			
地域貢献					北海道の地域と文化	地方自治体論				
行動共通										
卒業研究									卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ

上記の教職科目に加えて、「ことば科目群」、「行動科目群」の中に記載された、英語・中国語・国語の指定専門科目を履修しなければなりません。

4.医療事務従事者 養成

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	ことばのしくみ						
			総合教養講座 情報処理Ⅰ	異文化間コミュニケーション論 情報処理Ⅱ							
	教養科目群	人間と文化		世界の芸術	心理学概論						
		社会と制度	現代社会と法	現代社会と福祉	現代社会と経済						
		自然と科学									
		外国語 留学生 スポーツと健康									
ことば科目群	英語	総合英語演習ⅠA(1)	総合英語演習ⅠA(1)	コミュニケーションⅠA(1)	コミュニケーションⅠA(1)						
		総合英語演習ⅠA(2)	総合英語演習ⅠA(2)	コミュニケーションⅠA(2)	コミュニケーションⅠA(2)						
		総合英語演習ⅠB(1)	総合英語演習ⅠB(1)	コミュニケーションⅠB(1)	コミュニケーションⅠB(1)						
		総合英語演習ⅠB(2)	総合英語演習ⅠB(2)	コミュニケーションⅠB(2)	コミュニケーションⅠB(2)						
		CAIイングリッシュ演習Ⅰ	CAIイングリッシュ演習Ⅱ	CAIイングリッシュ・マスタリーⅠ	CAIイングリッシュ・マスタリーⅡ						
		初級検定英語Ⅰ	初級検定英語Ⅱ	中級検定英語Ⅰ	中級検定英語Ⅱ						
専門科目	行動科目群	中国語									
		日本語	日本語文章表現法演習Ⅰ 日本語音声表現法演習Ⅰ	日本語文章表現法演習Ⅱ 日本語音声表現法演習Ⅱ	日本語コミュニケーション技法	アクティブプレゼンテーション					
		ことば共通						上級検定英語 コピーライティング	通訳英語		
		文化探求 教職						英語の小説	日米文化比較		
		医療事務						公衆衛生学 統計の基礎 医療と福祉 チーム医療概論 社会保障・福祉論 メディカル・イングリッシュ	生命倫理 保健・医療概論 救急医学 リスク管理 国際保健学		
			国際観光ビジネス					ビジネス・イングリッシュ オフィスライティング ビジネス作法 経営学入門		ビジネス経済学	
				地域貢献					時事英語 ビジネスコミュニケーションⅠ	ビジネスコミュニケーションⅡ	
		行動共通									
		卒業研究								卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ

5-1.英語ツアーコンダクター 養成

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	1年次	1年次	2年次	2年次	3年次	3年次	4年次	4年次
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	ことばのしくみ					
			総合教養講座 情報処理Ⅰ	異文化間コミュニケーション論 情報処理Ⅱ						
	教養科目群	人間と文化								
		社会と制度			現代社会と経済	現代社会とキャリアプラン				
		自然と科学			人間と住居					
		外国語			ロシア語Ⅰ	ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅲ	ロシア語Ⅳ		
留学生										
スポーツと健康										
専門科目	ことば科目群	英語	総合英語演習ⅠA(1)	総合英語演習ⅠA(1)	コミュニケーションⅠA(1)	コミュニケーションⅠA(1)				
			総合英語演習ⅠA(2)	総合英語演習ⅠA(2)	コミュニケーションⅠA(2)	コミュニケーションⅠA(2)				
			総合英語演習ⅠB(1)	総合英語演習ⅠB(1)	コミュニケーションⅠB(1)	コミュニケーションⅠB(1)				
			総合英語演習ⅠB(2)	総合英語演習ⅠB(2)	コミュニケーションⅠB(2)	コミュニケーションⅠB(2)				
			CAIイングリッシュ演習Ⅰ	CAIイングリッシュ演習Ⅱ	CAIイングリッシュ・マスターⅠ	CAIイングリッシュ・マスターⅡ				
			初級検定英語Ⅰ	初級検定英語Ⅱ	中級検定英語Ⅰ	中級検定英語Ⅱ				
	中国語									
	日本語	日本語文章表現法演習Ⅰ	日本語文章表現法演習Ⅱ							
		日本語音声表現法演習Ⅰ	日本語音声表現法演習Ⅱ	日本語コミュニケーション技法						
	ことば共通	言語による自己表現		ベーシックプレゼンテーション	アクティブプレゼンテーション					
行動科目群	言語プロフェッショナル						上級検定英語 コピーライティング	通訳英語	翻訳英語	
	文化探求						欧米地域文化論 日本の信仰と生活	環太平洋地域文化論 現代英語圏のすがた	日米文化比較 日中文化比較	中華圏の社会と文化
	教職							近現代文献で読む日本文化		
	医療事務									
	国際観光ビジネス						ビジネス・イングリッシュ 観光英語	北海道の観光 観光産業インターンシップ	英語の広告・マーケティング	
	地域貢献						北海道の地域と文化 時事英語			
卒業研究								卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ	

5-2.中国語ツアーコンダクター 養成

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	1年次	1年次	2年次	2年次	3年次	3年次	4年次	4年次
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	ことばのしくみ					
	教養科目群	人間と文化	人間の思想	異文化間コミュニケーション論						
		社会と制度	現代社会と法	現代社会と福祉						
		自然と科学								
		外国語								
		留学生								
スポーツと健康										
専門科目	ことば科目群	英語	総合英語演習ⅠA(1) 総合英語演習ⅠA(2)	総合英語演習ⅡA(1) 総合英語演習ⅡA(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(1) コミュニケーション・イングリッシュⅠA(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅡA(1) コミュニケーション・イングリッシュⅡA(2)				
		中国語	中国語の基礎演習Ⅰ(1)	中国語の基礎演習Ⅱ(1)	速修中級中国語Ⅰ(1)	速修中級中国語Ⅱ(1)	速修上級中国語Ⅰ(1)	速修上級中国語Ⅱ(1)		
			中国語の基礎演習Ⅰ(2)	中国語の基礎演習Ⅱ(2)	速修中級中国語Ⅰ(2)	速修中級中国語Ⅱ(2)	速修上級中国語Ⅰ(2)	速修上級中国語Ⅱ(2)		
			中国語の発展演習Ⅰ(1)	中国語の発展演習Ⅱ(1)	中級検定中国語Ⅰ	中級検定中国語Ⅱ				
			中国語の発展演習Ⅰ(2)	中国語の発展演習Ⅱ(2)	話す中国語Ⅰ	話す中国語Ⅱ				
			中国へのアプローチ	初級検定中国語	聴く中国語Ⅰ	聴く中国語Ⅱ				
		発音チェック中国語	漢字のしくみ	書く中国語Ⅰ	書く中国語Ⅱ					
	日本語	日本語文章表現法演習Ⅰ 日本語音声表現法演習Ⅰ 言語による自己表現 非言語による自己表現	日本語文章表現法演習Ⅱ 日本語音声表現法演習Ⅱ							
	ことば共通									
	行動科目群	言語プロフェッショナル						通訳中国語 上級検定中国語		
		文化探求						環太平洋地域文化論 日本の信仰と生活	日中文化比較 中華圏の文学と芸術	中華圏の社会と文化
		教職								
		医療マネジメント								
		国際観光ビジネス						情報処理中国語 ビジネス中国語	観光ガイド中国語	メディア中国語
		地域貢献						北海道の観光 観光産業インターンシップ		
行動共通							北海道の地域と文化	時事中国語		
卒業研究								卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ	

5-3. 英語圏商社員 養成

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	1年次		2年次		3年次		4年次		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	ことばのしくみ						
			総合教養講座	異文化間コミュニケーション論							
			情報処理Ⅰ	情報処理Ⅱ							
	教養科目群	人間と文化		サイバースペース入門							
		社会と制度	現代社会と法	世界の芸術	心理学概論						
		自然と科学	現代社会と政治		現代社会と経済						
外国語											
留学生											
スポーツと健康											
専門科目	ことば科目群	英語	総合英語演習ⅠA(1)*	総合英語演習ⅠA(1)*	英米の生活と文化	ドラマチック・コミュニケーション					
			総合英語演習ⅠA(2)*	総合英語演習ⅠA(2)*	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(1)	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(1)					
			総合英語演習ⅠB(1)*	総合英語演習ⅠB(1)*	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(2)					
			総合英語演習ⅠB(2)*	総合英語演習ⅠB(2)*	コミュニケーション・イングリッシュⅠB(1)	コミュニケーション・イングリッシュⅠB(1)					
			CAIイングリッシュ演習Ⅰ*	CAIイングリッシュ演習Ⅱ*	コミュニケーション・イングリッシュⅠB(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅠB(2)					
			初級検定英語Ⅰ	初級検定英語Ⅱ	CAIイングリッシュ・マスターⅠ	CAIイングリッシュ・マスターⅡ					
	中国語	中国語の基礎演習Ⅰ(1)*	中国語の基礎演習Ⅰ(1)*								
		中国語の基礎演習Ⅰ(2)*	中国語の基礎演習Ⅱ(2)*								
		中国語の発展演習Ⅰ(1)*	中国語の発展演習Ⅰ(1)*								
		中国語の発展演習Ⅰ(2)*	中国語の発展演習Ⅱ(2)*								
	日本語	言語による自己表現		ベーシックプレゼンテーション	アクティブプレゼンテーション						
	ことば共通										
	行動科目群	言語プロフェッショナル						上級検定英語		通訳英語	翻訳英語
								コピーライティング			
		文化探求								日米文化比較	
教職								現代英語圏のすがた			
医療事務											
国際観光ビジネス								ビジネス・イングリッシュ			英語の広告・マーケティング
								ビジネス中国語	マスメディア論		
									貿易と実務	国際比較ビジネス論	
地域貢献 行動共通							オフィスライティング	マーケティング論			
							ビジネス作法	国際経済学			
卒業研究						経営学入門	ビジネスインターンシップ				
						時事英語					
									卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ	

5-4.中国語圏商社員 養成

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	1年次		2年次		3年次		4年次			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	ことばのしくみ							
				異文化間コミュニケーション論								
	教養科目群	人間と文化	人間の思想	世界の芸術	心理学概論							
		社会と制度	現代社会と法	現代社会と福祉								
		自然と科学										
		外国語										
留学生												
スポーツと健康												
専門科目	ことば科目群	英語	総合英語演習ⅠA(1)	総合英語演習ⅡA(1)	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(1)	コミュニケーション・イングリッシュⅡA(1)						
			総合英語演習ⅠA(2)	総合英語演習ⅡA(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅡA(2)						
		中国語	中国語の基礎演習Ⅰ(1)	中国語の基礎演習Ⅱ(1)	速修中級中国語Ⅰ(1)	速修中級中国語Ⅱ(1)	速修上級中国語Ⅰ(1)	速修上級中国語Ⅱ(1)				
			中国語の基礎演習Ⅰ(2)	中国語の基礎演習Ⅱ(2)	速修中級中国語Ⅰ(2)	速修中級中国語Ⅱ(2)	速修上級中国語Ⅰ(2)	速修上級中国語Ⅱ(2)				
			中国語の発展演習Ⅰ(1)	中国語の発展演習Ⅱ(1)	中級検定中国語Ⅰ	中級検定中国語Ⅱ						
			中国語の発展演習Ⅰ(2)	中国語の発展演習Ⅱ(2)	話す中国語Ⅰ	話す中国語Ⅱ						
	中国へのアプローチ	初級検定中国語	聴く中国語Ⅰ	聴く中国語Ⅱ								
	発音チェック中国語	漢字のしくみ	書く中国語Ⅰ	書く中国語Ⅱ								
	日本語	日本語文章表現法演習Ⅰ	日本語文章表現法演習Ⅱ	読む中国語Ⅰ	読む中国語Ⅱ							
		ことば共通		読む中国語Ⅰ	読む中国語Ⅱ							
	行動科目群	言語プロフェッショナル						通訳中国語				
								翻訳中国語				
		国際観光ビジネス	文化探求						上級検定中国語			
			教職						クリエイティブライティング			
医療事務												
国際観光ビジネス								ビジネス中国語	情報処理中国語			
								オフィスライティング	貿易と実務	国際比較ビジネス論	メディア中国語	
								ビジネス作法	マーケティング論			
地域貢献							ビジネス経済学					
行動共通							ビジネスインターンシップ					
卒業研究						ビジネスコミュニケーションⅠ	時事中国語					
								卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ			

5-5. ホテルマン(英語話者) 養成

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	1年次	1年次	2年次	2年次	3年次	3年次	4年次	4年次
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	ことばのしくみ					
			総合教養講座	異文化間コミュニケーション論						
	教養科目群	人間と文化	世界の芸術	心理学概論						
		社会と制度		現代社会と経済						
		自然と科学		人間と住居						
		外国語		ロシア語Ⅰ	ロシア語Ⅱ					
留学生		朝鮮語Ⅰ	朝鮮語Ⅱ							
スポーツと健康										
ことば科目群	英語		総合英語演習ⅠA(1)	総合英語演習ⅠA(1)	英米の生活と文化					
			総合英語演習ⅠA(2)	総合英語演習ⅠA(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(1)	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(1)				
			総合英語演習ⅠB(1)	総合英語演習ⅠB(1)	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅠA(2)				
			総合英語演習ⅠB(2)	総合英語演習ⅠB(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅠB(1)	コミュニケーション・イングリッシュⅠB(1)				
			総合英語演習ⅡB(2)	総合英語演習ⅡB(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅠB(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅠB(2)				
			CAIイングリッシュ演習Ⅰ	CAIイングリッシュ演習Ⅱ	コミュニケーション・イングリッシュⅡB(2)	コミュニケーション・イングリッシュⅡB(2)				
		初級検定英語Ⅰ	初級検定英語Ⅱ	CAIイングリッシュ・マスタリーⅠ	CAIイングリッシュ・マスタリーⅡ					
				中級検定英語Ⅰ	中級検定英語Ⅱ					
	中国語		中国語の基礎演習Ⅰ(1)	中国語の基礎演習Ⅱ(1)						
			中国語の基礎演習Ⅰ(2)	中国語の基礎演習Ⅱ(2)						
日本語		中国語の発展演習Ⅰ(1)								
		中国語の発展演習Ⅰ(2)								
		言語による自己表現		ベーシックプレゼンテーション	アクティブプレゼンテーション					
		非言語による自己表現	日本語と日本文化							
専門科目	行動科目群	言語プロフェッショナル					上級検定英語	言語行動学	通訳英語	
							コピーライティング	音声学への招待		
		文化探求						環太平洋地域文化論	日米文化比較	
		教職					日本の信仰と生活		日中文化比較	中華圏の社会と文化
		医療事務								
		国際観光ビジネス					ビジネス・イングリッシュ			
							観光英語		国際比較ビジネス論	
					オフィスライティング	北海道の観光				
					ビジネス作法	観光産業インターンシップ				
					北海道の地域と文化					
					時事英語					
		卒業研究							卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ

5-6.ホテルマン(中国語話者) 養成

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	1年次	1年次	2年次	2年次	3年次	3年次	4年次	4年次
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミ I	基礎ゼミ II	ことばのしくみ					
				異文化間コミュニケーション論						
	教養科目群	人間と文化	人間の思想	世界の芸術	心理学概論					
		社会と制度	現代社会と法	現代社会と福祉						
		自然と科学			人間と住居					
外国語										
留学生										
スポーツと健康										
専門科目	ことば科目群		総合英語演習IA(1)	総合英語演習IIA(1)	コミュニケーション・イングリッシュIA(1)	コミュニケーション・イングリッシュIIA(1)				
			総合英語演習IA(2)	総合英語演習IIA(2)	コミュニケーション・イングリッシュIA(2)	コミュニケーション・イングリッシュIIA(2)				
		中国語	中国語の基礎演習 I (1)	中国語の基礎演習 II (1)	速修中級中国語 I (1)	速修中級中国語 II (1)	速修上級中国語 I (1)	速修上級中国語 II (1)		
			中国語の基礎演習 I (2)	中国語の基礎演習 II (2)	速修中級中国語 I (2)	速修中級中国語 II (2)	速修上級中国語 I (2)	速修上級中国語 II (2)		
			中国語の発展演習 I (1)	中国語の発展演習 II (1)	中級検定中国語 I	中級検定中国語 II				
			中国語の発展演習 I (2)	中国語の発展演習 II (2)	話す中国語 I	話す中国語 II				
			中国へのアプローチ	初級検定中国語	聴く中国語 I	聴く中国語 II				
			発音チェック中国語	漢字のしくみ	書く中国語 I	書く中国語 II				
		日本語	日本語文章表現法演習 I	日本語文章表現法演習 II						
			言語による自己表現			アクティブプレゼンテーション				
	ことば共通									
	行動科目群	言語プロフェッショナル						通訳中国語		
							翻訳中国語			
							上級検定中国語			
		文化探求						クリエイティブライティング		
										中華圏の社会と文化
教職										中華圏の文学と芸術
医療事務										
国際観光ビジネス							情報処理中国語	観光ガイド中国語		
							ビジネス中国語		メディア中国語	
地域貢献							北海道の観光			
	行動共通						観光産業インターンシップ			
卒業研究						北海道の地域と文化	時事中国語			
								卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ	

6. 地方自治体行政員 養成

区分	下位区分A	下位区分B/ トラック	1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	基礎科目群	基礎科目群	基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	ことばのしくみ					
			総合教養講座	異文化間コミュニケーション論						
			情報処理Ⅰ	情報処理Ⅱ						
	教養科目群	人間と文化	ブリッジ・イングリッシュ	サイバースペース入門						
			社会と制度	現代社会と福祉	現代社会と経済	現代社会とキャリアプラン				
			自然と科学	現代社会と政治						
外国語			自然と環境							
留学生			ロシア語Ⅰ	ロシア語Ⅱ						
スポーツと健康										
ことば科目群	英語	総合英語演習ⅠA(1)	総合英語演習ⅠA(2)	総合英語演習ⅡA(1)	総合英語演習ⅡA(2)					
		中国語								
	日本語	日本語文章表現法演習Ⅰ	日本語文章表現法演習Ⅱ	現代日本語論	世界の言語と日本語					
		日本語音声表現法演習Ⅰ	日本語音声表現法演習Ⅱ	日本語コミュニケーション技法	日本の文学作品を読む					
		日本語学演習Ⅰ	日本語学演習Ⅱ	現代日本語のフィールドワーク	ことばと心					
		現代日本語文法演習	日本語教育基礎演習	日本語教授法Ⅰ	ことばと社会					
		言語による自己表現	日本の漢字と言語生活	ベーシックプレゼンテーション	アクティブプレゼンテーション					
		非言語による自己表現	日本語と日本文化							
	ことば共通									
	専門科目	言語プロフェッショナル						アカデミックライティング技法	日本語手話法	
							言語行動学			
文化探求		教職					クリエイティブライティング			
		医療事務					コピーライティング			
		国際観光無事ネス					日本の信仰と生活	環太平洋地域文化論		中華圏の社会と文化
地域医療		国際観光無事ネス					オフィスライティング	マスメディア論	日本語実践運用法	
							ビジネス作法	国際経済学		
							北海道の観光			
行動共通						北海道の地域と文化	地方自治体論	国際政治経済学		
						公務員受験講座Ⅰ	公務員受験講座Ⅱ			
						ビジネスコミュニケーションⅠ	ビジネスコミュニケーションⅡ			
						ファイナンシャル・プランニング講座				
	卒業研究								卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ

## 大学日本語教員養成課程修了書取得に必要な科目・単位数

科目区分	科目		単位数
教養科目	選択必修 2単位	情報処理Ⅰ	2
		情報処理Ⅱ	2
	○	現代社会と法	2
	○	現代社会と政治	2
	選択必修 2単位	ロシア語Ⅰ	1
		ロシア語Ⅱ	1
		ロシア語Ⅲ	1
		ロシア語Ⅳ	1
		朝鮮語Ⅰ	1
		朝鮮語Ⅱ	1
○	ことばのしくみ	2	
○	異文化間コミュニケーション論	2	
専門科目	○	日本語文章表現法演習Ⅰ	1
	○	日本語文章表現法演習Ⅱ	1
	○	日本語音声表現法演習Ⅰ	1
	○	日本語音声表現法演習Ⅱ	1
	○	日本語学演習Ⅰ	1
	○	日本語学演習Ⅱ	1
	○	現代日本語文法演習	1
	○	日本語教育基礎演習	1
		言語による自己表現	1
		非言語による自己表現	1
	○	日本の漢字と言語生活	1
	○	日本語と日本文化	1
	○	現代日本語論	2
	○	日本語コミュニケーション技法	2
	○	現代日本語のフィールドワーク	2
	○	ことばと心	2
	○	ことばと社会	2
	○	日本語教授法Ⅰ	2
	○	世界の言語と日本語	2
		ベーシックプレゼンテーション	2
		アクティブプレゼンテーション	2
	○	日本語教授法Ⅱ	2
	○	音韻から見える日本語の諸相	2
	○	言語行動学	2
	○	音声学への招待	2
	○	日本語教育実践Ⅰ	2
	○	日本語教育実践Ⅱ	2
	○	日本語の構造	2
		日本語手話法	2
	選択必修 2単位	日米文化比較	2
		日中文化比較	2
		書道・書道史Ⅰ	2
		書道・書道史Ⅱ	2
		日本の信仰と生活	2
	マスメディア論	2	
	オフィスライティング	2	
○	日本語実践運用法	2	
○	北海道地域文化論	2	
○	国際協力論	2	

必修科目(○印)50単位、選択必修6単位、選択14単位以上を履修する。